

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名		千葉女子専門学校			分野	保育士	
訓練コース		保育科			資格等	保育士	
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン使用時間数		
	訓練の内容	保育原理	保育士資格必修	2	30		
教育と社会(教育の理念・歴史・思想を含む)		保育士資格必修	2	30			
子ども家庭福祉		保育士資格必修	2	30			
社会福祉		保育士資格必修	2	30			
社会的養護 I		保育士資格必修	2	30			
保育者論		保育士資格必修	2	30			
教師論		保育士資格必修	2	30			
保育の心理学		保育士資格必修	2	30			
子どもの理解と援助		保育士資格必修	1	30			
教育心理学		保育士資格必修	2	30			
子どもの保健		保育士資格必修	2	30			
子どもの食と栄養 I		保育士資格必修	1	30			
教育課程・保育の計画と方法		保育士資格必修	2	30			
学 幼児理解の理論と方法		保育士資格選択必修	2	30			
科 (講義)		こどもと健康	保育士資格必修	1	20		
		こどもと環境	保育士資格必修	1	20		
		こどもと言葉	保育士資格必修	1	20		
		こどもと音楽表現	保育士資格選択必修	1	20		
		こどもと造形表現	保育士資格選択必修	1	20		
		保育内容「健康」の指導法	保育士資格必修	2	30		
		保育内容「環境」の指導法	保育士資格必修	2	30		
		保育内容「言葉」の指導法	保育士資格必修	2	30		
		保育内容「表現」の指導法	保育士資格必修	2	30		
		乳児保育 I	保育士資格必修	2	30		
		乳児保育 II	保育士資格必修	1	30		
		子どもの健康と安全	保育士資格必修	1	30		
		情報処理	保育士資格必修	2	30	30	
		教育実習指導 I	幼稚園免許取得の為の必修科目	1	60	20	
		保育実習指導 I	保育士資格必修	2	60		
		保育者の教養 I	保育士資格選択必修	2	30		
		小計			910	50	
実技(演習)		こどもの音楽 I	保育士資格選択必修	2	60		
	こどもの造形	保育士資格選択必修	1	30			
	幼児体育	保育士資格選択必修	1	30			
	教育実習	幼稚園免許取得の為の必修科目	1	48	24		
	保育実習	保育士資格必修	2	90			
	学級活動	保育士としての資質を涵養する活動		24			
	ゼミナール活動	保育士としての資質を涵養する活動		14			
	学園祭	保育士としての資質を涵養する活動		24			
	ファーストステップ研修会	保育士としての資質を涵養する活動		16			
	小計			336	24		
就職支援	面接指導、公務員講座			12			
合計(1年次合計)				1258	74		

その他

入校式等※			12
-------	--	--	----

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

1年次開設科目のうち、保育士資格取得に必要な全ての科目及び実習の単位を修得すること。
--

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名		千葉女子専門学校			分野	保育士
訓練コース		保育科			資格等	保育士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数	
	学 科 (講 義)	子ども家庭支援の心理学	保育士資格必修	2	30	
		子どもの食と栄養Ⅱ	保育士資格必修	1	30	
		保育内容総論	保育士資格必修	1	30	
		こどもと人間関係	保育士資格必修	1	20	
		保育内容「表現」の指導法Ⅱ	保育士資格選択必修	2	30	
		保育内容「人間関係」の指導法	保育士資格必修	2	30	
		子ども家庭支援論	保育士資格必修	2	30	
		特別支援教育・保育総論	保育士資格必修	2	60	
		社会的養護Ⅱ	保育士資格必修	1	30	
		子育て支援	保育士資格必修	1	30	
		教育相談	保育士資格選択必修	2	30	
		保育実践演習	保育士資格必修	2	60	
		教職実践演習	幼稚園免許取得の為の必修科目	2	60	
		日本国憲法	保育士資格必修	2	30	
		英語一般	保育士資格必修	2	60	60
		体育講義	保育士資格必修	2	30	
		教育実習指導Ⅱ	幼稚園免許取得の為の必修科目	1	30	4
		保育実習指導Ⅱ	保育士資格必修	1	30	
		教育保育実習指導	保育士資格取得の為の関連科目		16	8
保育者の教養Ⅱ	保育士資格選択必修	1	20			
小計				686	72	
実 技 (演 習)	こどもの音楽Ⅱ	保育士資格選択必修	2	60		
	体育実技	保育士資格必修	1	30		
	教育実習	幼稚園免許取得の為の必修科目	3	112		
	保育実習	保育士資格必修	2	90		
	施設実習	保育士資格必修	2	90		
	学級活動	保育士としての資質を涵養する活動		24		
	ゼミナール活動	保育士としての資質を涵養する活動		12		
	学園祭(準備含む)	保育士としての資質を涵養する活動		16		
	ファーストステップ研修会	保育士としての資質を涵養する活動		16	4	
小計				450	4	
就 職 支 援	就職対策、面接指導、 公務員講座			44		
合計(2年次)				1180	76	

その他

修了式等※			8
-------	--	--	---

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

<p>所定の年限を在学し、学則7条の第1号または第2号に定める単位を修得した者について卒業とする。</p>

委託訓練カリキュラム（1年次）

実施施設名		清和大学短期大学部			分野	保育士
訓練コース		こども学科			資格等	保育士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内ハソコ 使用時間数	
	学 科 （ 講 義 ）	真心教育	建学の精神「真心教育」とその実践	1	15	
法学（日本国憲法）		日本国憲法の主要な項目の内容理解	2	30		
生活科学		科学的観点から生活をとらえ生活自立に向けより良い生活を創造する	2	30		
体育理論		運動の効果と応急処置の方法を学ぶ	1	16		
国語表現		保育士としてどのように書き、どのように話すか	2	30		
レクリエーション概論		レクリエーションの基礎的理論	2	30		
子どもの遊びⅠ		遊びがもたらす学びの内容	2	30		
教育原理		教育の本質、目的、思想、歴史	2	30		
保育原理		保育について考え、理解する	2	30		
保育と教育の心理学		保育と教育の心理学の基本的な知識の修得	2	30		
教育・保育課程論		保育課程についての理解	2	30		
子ども家庭福祉		児童福祉について深く考え知る	2	30		
社会福祉		社会福祉の歴史・制度に学ぶ	2	30		
子どもの保健		小児の正常な発育および疾病を知る	2	30		
小計			26	391	0	
実 技 （ 演 習 ）		体育実技	スポーツ体験を通して生涯スポーツに結びつくスポーツの楽しみ方を探る	1	44	
	英語コミュニケーションⅠ	英語の基礎的な口語表現を学ぶ	1	30		
	英語コミュニケーションⅡ	英語の実践的な口語表現を学ぶ	1	30		
	情報処理Ⅰ	情報処理の意味を理解し基本的活用を知る	1	30	30	
	情報処理Ⅱ	情報処理の意味を理解し自在に活用する	1	30	30	
	ピアノ演奏法Ⅰ	音楽理論及びピアノ演奏	1	30		
	レクリエーション実技Ⅰ	レクリエーション実技（基本）	1	30		
	健康指導法	保育内容について理解し、考える	1	30		
	言葉指導法	乳幼児期の言葉の発達とその指導	1	30		
	音楽表現指導法	乳幼児期における音楽表現活動の内容と研究	1	30		
	総合保育演習	保育に関する知識・技能を学び見学実習を通しPDCAサイクルを体験	4	120		
	子どもの健康と安全	小児期の主要な疾患の看護、日常の保育現場で必要な技術と保育における保健的対応	1	30		
	保育実習Ⅰ（保育所）	保育所における基礎的実習	2	80		
	保育実習Ⅰ（施設）	児童福祉施設等における基礎的実習	2	80		
	保育実習指導Ⅰ（事前指導）	児童福祉施設における基礎的実習の事前指導	1	30		
	小計			20	654	60
就 援 職 支		就職オリエンテーション×4回		8		
合計（1年次合計）			46	1053	60	

その他

入校式等※	入学式・開講式・オリエンテーション		12	
-------	-------------------	--	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

特になし。ただし、資格取得を目指す場合は、指定科目の全てを取得することが望ましい。

委託訓練カリキュラム (2年次)

実施施設名		清和大学短期大学部			分野	保育士
訓練コース		こども学科			資格等	保育士
学	科	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内ハコフ 使用時間数
		(講義)	教職論	保育者としての責務と倫理	2	
		社会的養護Ⅰ	児童養護の理論と倫理	2	30	
		子ども家庭支援の心理学	初期経験の重要性、発達課題、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解	2	30	
		乳児保育Ⅰ	3才未満の保育について学ぶ	2	30	
		子ども家庭支援論	家庭支援の意義や目的	2	30	
小計				10	150	0
訓練の内容	実技(演習)	レクリエーション実技Ⅱ	レクリエーションの実践と応用	1	30	
		保育内容総論	健康指導、安全指導について学ぶ	1	30	
		人間関係指導法	乳幼児期における人とのかかわりの発達とその指導	1	30	
		環境指導法	子どもの育ちと「環境による保育」	1	30	
		社会的養護Ⅱ	児童養護の理論と実践	1	30	
		子どもの食と栄養	年齢に応じた適切な食のあり方を知る	2	60	4
		教育・保育相談の理論と方法	保育や教育の現場で適切な関わりや学習援助を行うための基本的知識	1	30	
		乳児保育Ⅱ	3才未満の保育の実践方法の理解	1	30	
		特別支援保育Ⅰ	特別な支援を必要とする子どもたちとの関わりの基礎	1	30	
		特別支援保育Ⅱ	特別な支援を必要とする子どもたちとの関わりの実践	1	30	
		子育て支援	子育て支援について考える	1	30	
		卒業研究(表現)	現場での行事を念頭に2年間の学修の成果を発表	1	30	
		教職・保育実践演習(幼)	保育者養成2年間の学びを振り返り、今後の課題を検討する	2	30	10
		保育実習指導Ⅰ(事後指導)	児童福祉施設における基礎的実習の事後指導	1	30	6
		保育実習ⅡまたはⅢ	保育所または施設における実習内容を深める	2	80	
保育実習指導ⅡまたはⅢ	保育実習Ⅱ・Ⅲの事前事後指導(上記実習と対にして履修)	1	30	6		
小計				19	560	26
	就職支援		就職オリエンテーション×4回		8	
合計(2年次)				29	718	26

その他

修了式等※	卒業式・閉講式・オリエンテーション		14	
-------	-------------------	--	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

教養科目：必修及び選択必修科目を含み9科目11単位以上取得

専門科目：必修及び選択必修科目を含み40単位以上取得

選択科目：上記科目分野から11単位以上取得

総取得単位数：62単位以上

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	成田国際福祉専門学校			分野	保育士
訓練コース	保育士学科			資格等	保育士
科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数	
法学 (日本国憲法を含む)	・日本国憲法を学び、社会生活に必要な基礎知識を習得する。法の下での平等・思想・宗教の自由・人権の享有等々がすべて、保育所保育指針の根底にあり、「子どもの最善の利益」に繋がることを知る。また、法律と保育は切り離せない事の意味を理解し子どもに正しく向き合える保育者になるようにする。	2	30	0	
社会学	・人びとが形づくる社会生活や集団、社会について調べ、色々な社会現象が起こるメカニズムを解明し、よりよい社会のあり方について探求する。講義では、社会学の基本的な人間関係、特に人権問題を中心に、例をとりあげながら紹介していく。	2	30	0	
保健体育Ⅰ	・人の健康について理解を深める。 ・運動やスポーツの実践が人の発育発達に及ぼす影響について、また生活習慣と疾病との関連についても学習する。 ・幼児期における運動機能や心の発達、また安全管理などの諸問題を取り上げる。 ・実際の指導場面で遭遇するであろう場面を想定し、具体例を挙げて講義する。	1	15	0	
文章表現	言葉を磨く。ものを幅広く深くみる力をつける。論理的な思考を身につける。自分のメッセージをきちんと相手に伝えることのできる、説得力に富んだ人間になる。	2	30	0	
保育原理	・乳幼児期の固有の意義とその育ちを支える保育者の役割の重要性について理解を深める。 ・基礎的な知識の習得とともに、保育の実践を支える子ども観、人間観、保育観の形成を目指す。 ・保育の意義、保育の思想と歴史的変遷などについて学びながら、保育の現状と課題について考察する	2	30	0	
教育原理	・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり ・教育の思想と歴史的変遷、教育に関する基礎的理論 ・教育の制度及び法律 ・教育実践のさまざまな取り組み ・生涯学習社会における教育の現状と課題	2	30	0	

学
科
(
講
義
)

<p>子ども家庭福祉</p>	<p>子どもの福祉の意義や歴史について体系的について 子どもの福祉に関連する法律・制度・期間・施設について学ぶ。 子どもの福祉の現状と課題について説明を聞き、保育士を目指す学生が、子ども福祉の専門職として、果たすべき役割や援助活動について明らかにする。</p>	<p>2</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>社会福祉</p>	<p>・社会福祉の基本的理解ができている。 ・子どもや保育者にとって社会福祉の積極的意義をまとめることができる。</p>	<p>2</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>社会的養護Ⅰ</p>	<p>現代社会における社会的養護の意義や歴史の変遷、制度や実施体系、子どもの権利保障や自立支援と養護の実際について理解する。 保育士（施設保育士）の役割について理解する。 子ども観や養護観について理解を深める。</p>	<p>2</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育者論</p>	<p>・保育者としての役割を知り、保育士倫理及び保育者の責務・専門性の不可欠な事であることを事例を通して学ぶ。 ・事例を自己及びグループで考察する。 ・豊かな感性及び人間性が子どもたちに反映する事を事例等を通し習得し自らの育ちから考察できるようにする。</p>	<p>2</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育の心理学</p>	<p>基本的発達理論と環境の関係やその重要性を理解できる。 乳幼児の各機能の発達とそれを支える環境について学ぶ。 乳幼児期の各段階に応じた学びとは何かと、それを支える環境について学び環境を整えられる知識の獲得を目指す。</p>	<p>2</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>子ども家庭支援の心理学</p>	<p>生涯発達に関する心理の基本的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもの家庭を包括的に捉える視点を習得する。 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 子どもの精神的保健とその課題について理解する。</p>	<p>2</p>	<p>30</p>	<p>0</p>

訓練の内容	子どもの保健	子どもの身体発育や生理機能及び運動機能、精神機能の発達と保健について理解する。 子どもの健康を守るための保健活動の意義や予防法について理解・対応の仕方を身につける。 健康状態の把握・発育・発達の把握と健康診断について学ぶ。	2	30	0
	乳児保育Ⅰ	保育所・児童福祉施設における、乳児保育の理念・制度・体制・現状等、基本的な理解をすると共に問題点や課題を学ぶ。 乳児期の発育・発達の特性を踏まえ「乳児の生活と保育」を保育士等の援助や関わりを理解する。 乳児保育での保育環境の大切さを学ぶ。	2	30	0
	介護Ⅰ	・介護職における専門教員により、介護に必要なノウハウを習得する。	4	60	0
	小計		31	465	0
	保健体育Ⅱ	・運動やスポーツの実践を通し、心身の変化や運動実施の楽しさを学ぶ。 ・人の健康について理解を深め、健康社会において豊で活力のある職業生活を営む態度を養うべく、様々な遊びやスポーツを実施する。	1	45	0
	子どもの食と栄養	・子どもの健康に果たす食生活の意義を理解する ・人の身体と食の関係を把握したうえで、子どもの成長と食を理解する ・身体的・生理的变化や人を含めた環境とのかかわりのなかで、子どもの食について、乳汁から幼児食等へどのように形態等を移行さ、支援していったらよいか学習する ・食物アレルギー、障害児等の特別な配慮を要する子どもへの理解と対処法を習得する ・食育の基本を学習し、実践へと応用していく	2	60	0
	保育内容総論	保育の基本理念である「子どもの最善の利益」を考え、「生涯にわたる人間形成の基礎を培う」ことを念頭に置き、「養護及び教育が一体的に展開する保育」「子どもの主体性を尊重する保育」「環境を通して行う保育」「生活や遊びによる総合的な保育」「個と集団の発達を踏まえた保育」を子どもの生活や発達を具体的な活動に繋げ、保育の実施に関して留意すべき事項の理解をする。	1	30	0

実
技
(
演
習
)

<p>保育内容演習健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を捉え、「健康」のねらいを通して心身の健康や生活を理解する。 ・基本的な生活習慣の必要性を知り、保育者としてのかかわり方を身に付ける。 ・安全に対するの重要性を理解し、保育者としての役割を知る。 ・集団としての必要なことを、生活やあそびを通して理解する。 ・「保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」との整合性を理解する。 	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育内容演習人間関係</p>	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「人間関係」について、乳幼児期の人間関係の発達の特徴をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。</p>	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育内容演習環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行なう援助や関りである「養護」 ・子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」 ・保育所保育指針に示す乳児保育における3つの視点を理解する。 	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育内容演習言葉</p>	<p>保育所保育指針の領域「言葉」について、乳幼児期の言語的発達をふまえ、保育における子どもの言葉によるコミュニケーション、絵本などの文化財とのかかわり等の具体的な言葉へのかかわり方を学ぶ。</p>	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育内容演習表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の意味を、理論的にまた、講義の中に実技をしながら学ぶ。 ・子どもの発達を身体的だけでなく、心の発達を重視しながら形容詞的部分を大事に捉え、抽象的な気持ちや感情・発想などを大切に見ていく。 ・自分で表現することを経験しながら、表現する意味を理解し大切さなど捉えていく。 	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育内容の理解と方法（音楽）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基本（音読み・リズム・強弱記号他#・b・kの習得）をプリントで勉強後実技に入る。 ・ピアノ曲・弾き歌い曲を中心に授業を行い、実習・試験等で活用できる力を身につける。 ・すべてのコードのマイナー、メジャーをつかめる様にする。 	<p>2</p>	<p>60</p>	<p>0</p>

保育内容の理解と方法（幼児体育）	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びの実践を通し、その遊びの楽しさを実感する。 ・運動遊びを実施する中で、指導上の注意点やポイント、また安全な指導ができるような方法を学習する。 ・運動遊びの指導案を作成し、それに沿った指導を実施し、終了後に反省会をする。 	2	60	0
障害児保育Ⅰ	<p>さまざまな障害の特徴を理解し、一人一人の発達に合わせた援助について理解を深める。個別の保育計画を作成し、集団生活の中でも、対象時の発達に合わせた成長を促すことができる保育実践について理解を深める。健常児と障害児がかかわり合うことで、ともに育ち合うことができる保育について考える。</p>	1	30	0
子どもの健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・集団における保育環境の重要性を理解するために乳幼児の発達に沿っての病気・事故発生を知り、対応等を具体的に理解する。 ・事例を通し、環境整備の仕方、着眼点を具体的に学ぶ。 ・保育指導計画に保健・食・アレルギー・等を加味し作成する事を知る。 ・事例を自己及び集団で検討し、対策を具体的に理解する。 	1	30	0
保育実習指導Ⅰ（保育所）（ゲストスピーカー含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰで実施される実習の意義・目的・内容を理解し、実習を円滑に進めていくための知識・技能・技術を習得する。また、自己の目標・課題を明確にし、実習において自ら進んで学ぶ姿勢を身に付ける。 ・各保育所の保育方針や保育目標について調べ、理解し、実践保育に観察・参加することにより保育所の目的や保育士の業務・職務上の留意点等を学ぶ。 ・養成校で理論的に学んだ保育の本質、乳幼児理解、保育の内容について体験的に学び把握できるようになる。卒業生から保育現場での話や実習生としての心構え等を聞き実習に意欲と期待を持たせる。 	1	38	0
保育実習Ⅰ保育所（プレ実習含む）	<p>保育所の生活に参加し、乳幼児の理解を深めるとともに、保育所における1日の流れや保育所の機能と保育士の職務について実践を通して理解する。</p> <p>「保育所実習Ⅰ」では、見学・観察を中心に、学内での1年間の学びを基礎として、保育の計画と評価の理解を図る。（全体的な計画と指導計画）また、日々の課題を明確にしながら、観察実習、参加実習、日誌への記録及び考察を行う。</p>	2	114	0

	リトミックⅠ	・スイスの作曲家であり音楽教育家である、エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した“リトミック”を学習する。 ・保育園で実践・応用できる内容で、リズムとピアノ演奏を含む指導法を学ぶ。 ・リトミックⅠでは、3歳児（年少）を対象とする指導法と基礎的な動きを学ぶ。	1	30	0
	造形表現	・発達に応じて、身体・造形・言語等に関する知識や技術を、実践・体験より実感できるようになる。 ・教材など活用及び作成する技術・教え方・援助などの仕方を学ぶ。 ・造形の中には縫製を含め、造形技術に限らず、生活に必要な経験を学ぶ。 ・「感じる・考える・工夫する」具体的な在り方に触れる。	2	60	0
		小計	21	707	0
就職支援				4	
	就職支援			4	
合計(1年次合計)			52	1176	0
その他					
	入校式等※	オリエンテーション・教科書販売・入学式・健康診断・発表会		4	
※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。					
進級要件					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率80%以上及び定期試験60点以上。 ・実習全日程履修 					

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名		成田国際福祉専門学校			分野	保育士
訓練コース		保育士学科			資格等	保育士
科目		科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数	
学 科 (講 義)	子ども家庭支援論	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について理解する。 ・家庭の意義と多様な子育て家庭のニーズと子育て支援等の現状と課題について理解する。 ・子育て家庭への支援について理解する。 ・子どもの貧困や非行などの背景の概要について理解する。 	2	30	0	
	保育原理Ⅱ(指導案の作成)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針より、作成方法を実際に書きながら覚える。 ・作成に付随する、言葉の意味を再度確認する。 ・「子どもの最善の利益」「全国保育士倫理綱領」について再確認する。 ・保育形態による指導案作成があることを知らせ、留意点について知らせる。 	2	30	0	
	障害者福祉論	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がこれまで、どの様に育ってきているかを整理する。 ・自分が持っている障がい者に対する偏見に気付くために、本当の自分を知る。 	2	30	0	
	地域福祉論	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が考える「自立生活」を考える。 ・「他者を支える」という事、自分が支えられている事の意味とは。 ・新しい時代の「自立」と地域福祉のあり方を考える。 	2	30	0	
	臨床心理学	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保護者」の心理アセスメントに必要な心理学理論について概観する。 ・主な精神疾患の症状・特徴を理解し、基本的な対応ができる状態を目指す。 ・代表的な心理療法の考え方を理解する事で心理的援助の基本的枠組みの獲得を促す。 	2	30	0	

社会的養護内容	・児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、児童自立支援施設の各施設について、①歴史的変遷、②法的位置づけ、③養護の内容、④保育士の業務内容、⑤退所後のケア、⑥将来展望について、5～6人程度で班を構成し、発表する。	2	30	0
介護Ⅱ	・介護職における専門教員により、介護に必要なノウハウをわかり易く行う。	2	30	0
小計		14	210	0
情報概論	・適切な情報セキュリティの知識を身につけて安全な利用を図る。 ・ワープロ機能の活用により、文書作成能力を身につけ、保育士として、保育だよりなどのお知らせなどがパソコンで作成できるようにする。 ・文字入力がすべての基本となるため、第2回以降の講義については、最初の10分間、キーボード練習ソフトを使って、文字入力の練習をする。 ・プレゼンテーションの知識を習得し、子供向け電子紙芝居を作成する。	2	60	60
英語	・基本となる英会話を通じて、英語を話すことの楽しみを知り、実際に話すことにチャレンジしたいという気持ちを持たせることに重点を置く。 ・教師の一方的な講義ではなく、学生が参加するインタラクティブな授業を目指す。	2	60	0
子どもの理解と援助	・子どもの実態に応じた発達や学びの把握 ・子どもを理解する視点 ・子どもを理解する方法 ・子どもの理解に基づく発達援助	1	30	0

乳児保育 II	<ul style="list-style-type: none"> ・実践保育に適応できるよう「乳児の生活と保育」の理論をもとに、実践的な援助方法や保育者の関りを組み合わせ総合的な能力を培う。 ・乳児期の発育・発達を踏まえ、基本的生活習慣の獲得に向けた保育者の援助方法を各項目に学ぶ。（調乳・授乳・離乳食・おむつ替え・排泄・睡眠・衣服の着脱・清潔等） ・乳児期の発育・発達を踏まえ、望ましい体験と遊びを通して自ら活動できるように必要な援助を実践的に学ぶ。 	1	30	0
障害児保育 II	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他児との関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深めるようにする。 ・障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ・障害のある子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育の現状と課題について理解する。 ・すべて事例を通し、保育の中で、共に育つことの大切さを理解させる。 	1	30	0
社会的養護 II	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護における子どもの権利保障や保育士の倫理、施設養護や里親制度等について、体験的に理解する。 ・児童養護施設等における日常生活を理解し、よりよい支援の在り方を学ぶ。 ・児童養護施設を中心に、支援者の視点から、子どもを取り巻く社会の現状を考える。 	1	30	0

訓練の内容

<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の子育て事情を把握し「子どもの最善の利益」を基本に保護者に適切な支援ができる様、知識と態度を学び事例を通して支援の方法を身につける。 ・ 保育所における保護者及び地域の子育て中の、親への支援方法を知りグループ討議及びグループで作成してみる。 ・ 情報提供の仕方・電話相談・来所相談等の仕方について演習を通して身につける。 	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>保育実習指導Ⅱ (施設) (ゲストスピーカー含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「人と人とのしあわせとは何か」を問題意識とし、できるだけ子どもや保育者の視座から「実習指導の概観」を行い、隣接講義とともに「保育実習」に反映することにある。卒業生から現場の状況及び留意点等について聞くことでより実習への理解を深める。 	<p>1</p>	<p>38</p>	<p>0</p>
<p>保育実習Ⅱ (施設)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設の概要や養護の一日の流れを理解し、参加する。 ・ 子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解する。 ・ 援助計画を理解する。 ・ 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 ・ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・ 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。 ・ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。 ・ 保育士としての職業倫理を理解する。 ・ 安全及び疾病予防について理解する。 ・ 実習前には事前訪問、実習中には見学・観察、参加、担当型の指導実習、反省会が行われる。 	<p>2</p>	<p>90</p>	<p>0</p>

実
技
(
演
習
)

<p>保育実践演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題について、問題等の現状を分析・考察・検討を行う力を養う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・履修した全ての科目の学びを総動員した学習を行う中で、学んだ内容を確認する ・その課題に関して問題点を発見し、解決のための方法を検討する。 ・その課題について、児童や保護者を援助するための技術・方法について考察する 	<p>2</p>	<p>60</p>	<p>60</p>
<p>リトミックII</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次(後期)のリトミックIで習得した基礎技術、及び指導法を充実させ、更に4歳児(年中)・5歳児(年長)を対象とする指導法と基礎的な動き(リズム)、及びその応用を学習する。 	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>0</p>
<p>幼児と音楽(童謡)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ曲バイエルNO100~ブリュグミュラーへ進める。 ・弾き歌いのレパートリーを増やす。 ・弾き歌いの伴奏変化を取り入れていく。 ・採用試験、保育実習の現場を想定した上での注意点、練習方法を習得し、実行に移す。 	<p>2</p>	<p>60</p>	<p>0</p>

<p>子どもと運動遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びを豊かにするための必要な知識や技術、指導方法について講義と実技を行う。 ・学習内容は日常生活、季節、空想・物語の世界など、様々な事柄から運動遊びに発展させていくことを学習する。 ・保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 ・子どもの発育と発達を踏まえた運動遊びの指導ができるようにする。 ・子どもの行動、表情、言葉など、様々な情報から推察される子どもの理的状态を捉え、それに対して指導者としてどのように対応していくべきなのか、実技授業において学習する。 ・実技授業の際は服装や靴などは運動実施に適したものを着用すること。 	2	60	0
<p>健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康」における内容を、1年生の復習・実習を振り返りながら、疑問点や課題を見出しより深く理解する。 ・実践的内容を多く取り入れ、理論と実践の結び付きができるようにする。 ・実践を通して、指導案の立案の仕方を理解する。 ・グループ話し合いの中で、幅広く考え、他者の意見を聞く姿勢を得る。 <p>又、 進行・書記・発表者の役割の経験をし、まとめる力を養う。</p>	1	30	0
<p>環境</p>	<p>1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行なう援助や関りである「養護」</p> <p>2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」</p> <p>(1) 保育所保育指針に示す乳児保育における3つの視点</p> <p>①「健やかに伸び伸びと育つ」(健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う)</p>	1	30	0

<p>リズム表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じて、身体・造形・言語等に関する知識や技術を、実践・体験より実感できる 内容。 ・教材など活用及び作成する技術・教え方・援助などの仕方を基本に進める。 ・リズム表現遊びだけでなく、昔から引き繋がれている遊び ・表現発表の流れ 	1	30	0
<p>保育実習指導 III・IV</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実習Ⅲの実習指導を行う。実習Ⅲの意義や目的を理解し、保育の場面を読み取る力をフォトランゲージを通して思考する力をつけ、日誌や指導案に活かす。 ・実習後は、個別事後レポートを通して自らの保育観について考察する。また、授業内実習報告会の発表を通して他者の実習を知ることにより、自らの学びとする。 ・保育実技・技術で足りなかったものを振り返り、課題を見つけオベレッタ作成を行い、保育を行う上で必要な資質・能力・技術の益々の向上を目指す。 ・「人と人とのしあわせとは何か」を問題意識とし、できるだけ子どもや保育者の視座から「実習指導の概観」を行い、隣接講義とともに「保育実習」に反映することにある。 ・後半8回以降は、実習の手引き作成を通して実習を振り返り、整理し、まとめ、実践におけるポイントを導き出す。 	1	30	0
<p>保育実習Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>実習Ⅰでの経験、学びを基礎として保育士に必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。乳幼児と積極的に関わり、記録・計画と実践・評価についての学びを深める。また、子育て支援について実体験を通して学ぶ。Ⅳにおいては、施設保育士としての職業の理解。安全及び疾病予防について理解する。</p>	2	90	0

	介護演習	・グループ指導により、介護技術を完全に習得できる様に演習を行う。 ・成果を、グループごとに発表する事で技術の習得の強化を図る。	3	90	0
	小計		28	908	120
就職支援				8	
合計（2年次）			42	1126	120
その他					
	修了式等※	・教科書販売・オリエンテーション・健康診断・学園祭・発表会・卒業式		4	
※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。					
修了(卒業)要件					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率80%以上 ・定期試験60点以上取得 ・保育実習Ⅱ・ⅢまたはⅣ全日数参加 					

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名		江戸川学園おおたかの森専門学校			分野	保育士
訓練コース		こども福祉学科			資格等	保育士
訓練の内容	学 科 (講義)	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数
				法学	憲法、家族法、警報、少年法等	2
		保健体育Ⅰ	保育者の健康管理と人体の基礎	1	15	0
		保育原理	保育理論及び保育の基礎的理解	2	30	0
		子ども家庭福祉	児童家庭支援サービスの概要と援助の基礎	2	30	0
		社会福祉	社会福祉法制度とサービスの概要	2	30	0
		社会的養護Ⅰ	児童養護施設等における支援の理解	2	30	0
		保育の心理学	発育発達の基礎的理解	2	30	0
		子どもの保健	保育保健の基礎	4	60	0
		乳児保育Ⅰ	乳児保育の基礎知識	2	30	0
		児童心理学	発達心理及び児童心理の概要	2	30	0
		レクリエーション論	対象に合わせたレクプログラムと指導法	2	30	0
		キャリア開発	キャリア形成の意義と進路選択能力の育成	2	30	0
		障害の理解	障害の社会的理解、障害者福祉の法制度	2	30	0
		小計		27	405	0
	実 技 (演習)	保健体育Ⅱ	発育・発達に合わせた体育プログラムと指導法	1	45	0
		情報処理 (基礎的ITリテラシー含む)	保育士に必要なPC操作、IT活用、情報セキュリティの重要性等、ITに関する法規制等	1	30	30
		保育内容総論	保育所等における保育内容の総合的理解	1	30	0
		保育内容演習Ⅰ	領域「健康」の理解	1	30	0
		保育内容演習Ⅱ	領域「人間関係」の理解	1	30	0
		保育内容演習Ⅲ	領域「環境」の理解	1	30	0
		保育内容演習Ⅳ	領域「ことば」の理解	1	30	0
		乳児保育Ⅱ	乳児保育の基礎的な技術	1	30	0
		保育内容の理解と方法Ⅰ	楽器演奏の基礎(ピアノ)	2	60	0
		保育内容の理解と方法Ⅱ	音楽理論・ソルフェージュ	1	30	0
		保育内容の理解と方法Ⅲ	造形の基礎	2	60	0
		保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰの事前指導・巡回指導	2	60	10
		保育実習Ⅰ	保育所と施設における実習・各12日間	4	180	0
		表現法Ⅰ	季節の子どもの歌と伴奏	1	30	0
		手話	聴覚障害児とのコミュニケーション方法等	1	30	0
		ボランティア実習	保育所、児童福祉施設等		34	0
介護技術講習	施設実習に向けて基本的な介護技術の習得		4	0		
特設学生指導	クラス指導及び全体指導		48	0		
		小計		21	791	40

就職支援	・クラス担任による進路希望調査のための個別面接 ・進路に向けた下調べや見学等の指導及び履歴書作成指導 ・実習・就職課による就職ガイダンス(就職先への電話のかけ方、見学の際の留意点、訪問マナー)		12	
合計(1年次合計)		48	1208	40

その他

入校式等※	入学式、健康診断、学科指導、学生生活および授業への心構え、学生生活及び学習・実習に関するオリエンテーション			
-------	---	--	--	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

原則として、1年次の科目を履修済でなければ進級できない。進級に必要な最低履修時間は800時間となっている。

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	江戸川学園おおたかの森専門学校			分野	保育士		
訓練コース	こども福祉学科			資格等	保育士		
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン使用時間数		
	学 科 (講 義)	社会学	保育士に必要な教養としての社会学	2	30	0	
		経済学	経済学の基礎知識	2	30	0	
		英語コミュニケーション	キッズイングリッシュ教授法	2	60	0	
		教育原理	教育理論及び教育の基礎的理解	2	30	0	
		保育者論	保育者としての心構えや対処方法の理解	2	30	0	
		子ども家庭支援論	子ども家庭支援の意義と基本	2	30	0	
		子ども家庭支援の心理学	子どもの発達課題と家庭への支援	2	30	0	
		子どもの理解と援助	発達を軸にした子ども理解の方法	1	30	0	
		保育の計画と評価	指導計画と保育過程の理解	2	30	0	
		保育指導方法	保育所保育指針に基づく保育過程の展開等	2	30	0	
		情緒障害児論	情緒障害児の理解と支援	2	30	0	
		小計			21	360	0
		実 技 (演 習)	保育内容演習Ⅴ	領域「表現」の理解	1	30	0
	保育内容の理解と方法Ⅳ		遊びと文化の理解	1	30	0	
	子どもの食と栄養		乳幼児及び福祉施設における食事と栄養	2	60	0	
	子どもの健康と安全		保育における保健的観点からの援助	1	30	0	
	障害児保育		障害児保育の理論及び基礎的理解と実際	2	60	0	
	社会的養護Ⅱ		児童養護施設等における保育の実際	1	30	0	
	子育て支援		保護者への育児支援と家庭支援	1	30	0	
	保育実践演習		保育過程の実践的展開と保育現場における諸問題への具体的な対応方法の理解	2	60	0	
	児童福祉総合演習		児童福祉施設における保育士の役割、施設見学や現場職員の講話、実践的な学び等	1	30	0	
	福祉レクリエーション		福祉対象者へのレクリエーションの提供方法等	2	60	0	
表現法Ⅱ	季節の子どもの歌と伴奏		1	30	0		
保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰの事後指導			15	8		
保育実習指導ⅡまたはⅢ	保育実習Ⅱ・Ⅲの事前指導・巡回指導・事後指導		1	45	22		
保育実習ⅡまたはⅢ	Ⅱ:保育園での実習12日間 Ⅲ:児童福祉施設での実習12日間	2	90	0			
特設学生指導	クラス指導及び全体指導		40	0			
小計			18	640	30		
就職支援		・クラス担任による進路希望調査のため個別の面接と指導 ・進路に向けた下調べや見学等の指導及び履歴書作成指導、就職試験対策 ・実習・就職課による就職ガイダンス(就職先への電話のかけ方、見学の際の留意点、訪問マナー等)		20			
合計(2年次)			39	1020	30		

その他

修了式等※	学科指導、授業・就活への心構え、卒業式等			
-------	----------------------	--	--	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

修了(卒業)には、1年次、2年次科目を全て履修しなければ修了(卒業)できない。

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	敬愛短期大学			分野	保育士
訓練コース	現代子ども学科			資格等	保育士
	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数
学 科 (講 義)	敬愛スタートアップゼミ	初年次教育	1	30	0
	文章表現法	将来を見据えた言語活用力として、文章表現の基本を理解させるとともに、文種による表現の特徴や作成上の留意点をも理解させ、教育者・保育者として文章を介して子どもを育てていくという使命感を育む	2	30	0
	日本国憲法	日本国憲法について、その背景にある立憲主義や平和主義、人権、民主主義などの考え方および重要な条文の概要を学ぶ。	2	30	0
	健康運動科学	運動・スポーツと健康について科学の視点からアプローチし、心と身体についての理解を深める。	1	30	0
	子どもと人間関係	子どもを取り巻く現代社会の人間関係に関心を持ち、その問題点や改善の方策を考察する。遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として理解する。指導・援助方法、人とのかかわりが難しい子どもへの支援方法を身につける。	2	30	0
	子どもと環境	乳幼児の言葉の発達を理解し、個々の発達に即した保育を考えられるようにする。遊びや児童文化の本質を理解したうえで、環境の指導に繋がる保育を考えられるようにする。	2	30	0
	子どもと言葉	子どもの言葉の発達段階における特徴や連続性など(言葉に関する知識)を捉え理解を深める。言葉を育てる保育において必要な教材作成や実践を行い(保育技術)を身につける 言葉に関わる協働的な学習を通して、(問題解決力や人と関わる基礎となるコミュニケーションスキル)を高める。	2	30	0
	教育原理	幼児教育や保育のあり方について考察する上での基礎となる教育の本質、教育目的、教育思想など教育の理念について学習し、幼児教育や保育の現場に立つにあたって必要となる幼児教育施設への理解、教育観、子どもの発達観について講義を行い、基礎的な幼児教育の習得を目指す。	2	30	0
	保育原理 I	幼児期の教育及び保育の意義・目的について理解する。幼稚園教育要領、保育所保育指針などにおける保育の基本について理解する。	2	30	0
	保育者論	保育のプロとしての自覚を持ち、変化に富んだ時代に対応できる姿勢を持ちながら、多様な可能性を秘めた幼児理解ができる資質の育成を目指す。	2	30	0
育ちと学びの心理学	乳幼児期の学びの過程と特性、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義について理解し、保育者は子どもにとって重要な人的環境であるという使命感を持つ。	2	30	0	

訓練の内容

教育・保育課程論	教育課程、全体的な計画の基準やその意義・編成及び実施について基本的な事項を理解するとともに、全体的な計画の編成に必要な資質・技能の習得と社会において果たしている役割や機能の理解を目指す。	2	30	0
幼児理解の理論と方法	幼児理解の基礎的な知識を学び、事例の読み取りなどを通して、幼児の生活や実態を把握し、幼児に心に寄り添い、発達に即した学びや育ちを促す適切な関わり方や方法を考えることができるようになることを目指す。	2	30	0
子ども家庭福祉	「子ども」の発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解」を到達目標とする。	2	30	0
社会的養護Ⅰ	わが国における社会的養護の理念と方向性を把握し、現在実施されている社会的養護の意義を理解する。	2	30	0
子どもの保健	子どもの保健は子ども一人一人の成長と発達を、身体的、精神的、社会的に理解し、子どもの健康の維持と増進を保育の場で実践と指導できるようになることを目標とする。	2	30	0
乳児保育Ⅰ	3歳未満児の発達の特徴を十分に理解するとともに、人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者に関して学ぶ。	2	30	0
児童文化Ⅰ	周囲の環境の全てが学習の対象となる乳幼児の成長の素材を紐解き、伝承文化、季節の行事・歌等を通して、子どもの心身の成長に合わせた保育の表現技術を広く学ぶ。	2	30	0
小計		34	540	0
情報処理Ⅰ	保育現場の即戦力となり、より実務的なOffice及びICTの習熟を目指す。	1	30	30
情報処理Ⅱ	保育現場の即戦力となり、より実務的なOffice及びICTの習熟を目指す。	1	30	30
英語コミュニケーションⅠ	昨今のグローバル化に伴い現場で求められる高度な英語コミュニケーション能力を養いつつ、異文化の理解も深めていく。	1	30	0
英語コミュニケーションⅡ	昨今のグローバル化に伴い現場で求められる高度な英語コミュニケーション能力を養いつつ、異文化の理解も深めていく。	1	30	0
生涯スポーツ実習	保育者として必要とされるスポーツ・運動に関する理論を理解する。	1	30	0
子どもと音楽Ⅰ	子ども一人一人を敬愛し、各年齢段階における発達の特徴を捉えた教材から、確実な音楽表現ができるように、その実践力を身につけることを目的とする。全員がレッスンカードB②まで到達する。	1	30	0
子どもと音楽Ⅱ	子ども一人一人を敬愛し、各年齢段階における発達の特徴を捉えた教材から、確実な音楽表現ができるように、その実践力を身につけることを目的とする。全員がレッスンカードB②まで到達する。	1	30	0

実
技
(
演
習
)

子どもと造形	幼児期の子どもと造形表現に関する実技・作品製作や、レポート類の作成等を通じて、子どもや保育者、造形表現に関する基本的な内容と指導・援助の方法・技術を体験的に理解し、習得する。	2	30	0
子どもと表現	領域「表現」を中心に学びながら、子どもの表現の発達やそれに関連する諸発達、他領域との関係も含め、子どもの表現を深く理解し、多角的に捉えられるようになることを目的とする。	2	30	0
保育内容総論	幼稚園教育、保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し、専門領域と関連させた理解を深める。	1	30	0
幼稚園実習指導 I	教育・保育の現場において子ども理解を深め、子どもや保護者を支援する方法を身につけられるよう、実践的な活動を通して2年次の本実習に向けて自己の課題を明確にするための事前指導を行う。	1	30	0
幼稚園実習	建学の精神「敬天愛人」の精神と使命感を備えた教育者・保育者を目指し、教育・保育の現場において子ども理解を深め、子どもや保護者を支援する方法を身に着けることを目標とする。1年次は観察参加実習として位置づけ、実践を通じて具体的な理解を深める。	-	30	0
子どもの食と栄養 I	子どもの発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解、主体的かつ協働的なコミュニケーションや課題解決の能力を身につけていることをねらいとする。	1	30	0
子どもの食と栄養 II	子どもの発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解、主体的かつ協働的なコミュニケーションや課題解決の能力を身につけていることをねらいとする。	1	30	0
乳児保育 II	3歳未満児の発達の特徴を十分に理解するとともに、人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者について学ぶ。	1	30	0
保育所実習 I	保育所の役割や機能、既習の教科目の内容を踏まえての保育及び保護者への支援、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的かつ総合的に理解する。	2	90	0
施設実習 I	①児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、具体的な理解を深める。 ②子どもや利用者との関わりを通して、相手への理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえて、支援について総合的に理解する。 ④社会的養護における計画、観察、記録等について、実践を通して具体的な理解を深める。 ⑤保育士としての自己の課題を明確化する。	2	90	0
保育所実習指導 I	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	1	30	0

	施設実習指導 I	保育実習(施設)の意義や目的を理解し、施設養護・家庭養護における子どもの自立に向けた支援、権利擁護のあり方や、職業倫理に関わる保育士の専門性について、実習を通しての学びを明確にするとともに、各自の実習生(保育者)としての課題を明確にすることを目的とする。	1	30	0
	小計		22	690	60
就職支援	キャリアデザイン I	幼児教育・保育の専門家として、幼稚園教諭や保育士あるいは福祉施設の職員となるため、自分の未来設計に向けて積極的に進んでいけるよう、キャリアデザインのサポートをする。	1	30	0
	キャリアデザイン II	幼児教育・保育の専門家として、幼稚園教諭や保育士あるいは福祉施設の職員となるため、自分の未来設計に向けて積極的に進んでいけるよう、キャリアデザインのサポートをする。	1	30	0
合計(1年次合計)			58	1,290	60

その他

入校式等※	訓練生対象の入校式・学内オリエンテーションのほか、通常の“教務ガイダンス”、実習・就職に関するオリエンテーションおよび実習報告会に参加する。		7	
-------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

1年次に修得単位数が20単位かつGPAが1.5以下の場合、1年次に留め置く。

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	敬愛短期大学			分野	保育士
訓練コース	現代子ども学科			資格等	保育士
	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数
学 科 (講 義)	敬愛ブラッシュアップゼミ	卒業研究	2	30	0
	教育方法	保育の方法や技術に関することについて、理念、歴史的背景、具体的な実践事例、ICT活用など、様々な観点から考えていく。保育者としての実践的な力量を高めることを目標とする。	2	30	0
	教育相談 (カウンセリング含む)	子どもたち全員を対象とし、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動であるという認識をもち、子どもに寄り添いともに成長しようとする使命感を培う。	2	30	0
	社会福祉	現代社会における社会福祉の意義、その理念や制度、実施体系や歴史を理解し、社会福祉における利用者保護、また保護者への関わりや支援を学びつつ、子ども家庭支援と社会福祉のかかわり、社会福祉の動向と今後の課題を考える。	2	30	0
	子どもと健康	健康の領域における「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことへ理解を深め、保育者として子どもの「生活」、「遊び」の環境づくり、保育活動の実践ができるようになることを目指す。	2	30	0
	子ども家庭支援論	すべての子育て家庭を対象として、保育の専門性を活かしニーズに応じた支援に関わることを理解し、保育者として子ども・保護者に寄り添い、子育て家庭を支えていくという使命感を培う。	2	30	0
	子ども家庭支援の心理学	発達段階と家族システム、親としての養育スタイルや多様な子育て環境を学び、あるべき支援の方法を学ぶ。	2	30	0
	保育原理Ⅱ (指導計画案の作成)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育の目標や保育で育みたい3つの資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解を深める。	2	30	0
	在宅保育	「在宅保育」の背景にある、子育てに関する社会的課題を学び、子育て支援としての役割を意識し、1対1あるいは少人数での保育における、責任ある(使命感)を持った保育者を育成する。	2	30	0
	児童文化Ⅱ	実習や就職後の保育現場で、子どもたちにより良い遊びの分化を伝えられる保育者を目指し体験的に学習し、理解を深める。	2	30	0
	社会的養護内容Ⅰ (生活環境等)	社会的養護の重要性が増大する中、① 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理 ② 施設養護、家庭養護及びその他の社会的養護の実践 ③ 児童の支援計画の作成 ④ ソーシャルワークの方法と技術 ⑤ 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉 等を学び保育士として必要な知識を養い、理解を深める。	2	30	0
小計			22	330	0

訓練の内容

実 技 (演 習	子どもと音楽Ⅲ	子ども一人一人の発達の連続性を理解し、子どもの向上しようとする意識を理解して、子どもが音楽と関わる姿から、保育者としての能力を身につけることを目的とする。「子どもと音楽Ⅳ」とあわせて1年間で歌唱教材25曲以上を習得する。	1	30	0
	子どもと音楽Ⅳ	子ども一人一人の発達の連続性を理解し、子どもの向上しようとする意識を理解して、子どもが音楽と関わる姿から、保育者としての能力を身につけることを目的とする。「子どもと音楽Ⅲ」に続き1年間で歌唱教材25曲以上を習得する。	1	30	0
	保育内容演習(健康)	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、「健康」領域のねらいと内容を踏まえ、乳幼児が遊びや生活、経験を通して健康で安全な生活を身につけ、見通しを持って行動できるようになるための保育者の具体的な援助方法について習得する。	1	30	0
	保育内容演習(言葉)	良好な社会生活を送る上でのコミュニケーション・ツールとして重要な「言葉」とはいかなるものかを明らかにするとともに、領域「言葉」のねらいと内容を理解させて子どもの言葉の発達に関わっていくという使命感を培う。	1	30	0
	保育内容演習(人間関係)	幼稚園教育要領に示された5領域のうち、人間関係のねらい及び内容について理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を通して保育を構想する方法を身に付ける。	1	30	0
	保育内容演習(環境)	保育所保育指針および幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し、子どもと環境との関わりについて具体的な活動や事例を通して学び、教育・保育に関する専門的な知識・技能の修得に励み、子どもの成長・発達について深い理解を持ち、子どもへの共感を基にしてコミュニケーションを深めたり、ともに考えながら支援する姿勢を身につけられるようにする。	1	30	4
	保育内容演習(表現)	1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における5領域の「表現」と保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。	1	30	0
	特別支援教育	保育者(保育士、幼稚園教諭)として障害をもつ子や援助を必要とする子どもの発達支援、及び保護者の子育て支援が責務であることを認識し、適切な援助を行うために必要な知識を習得することを目指す。	2	30	0
	幼稚園実習指導Ⅱ	実習の事前事後指導を通して建学の精神「敬天愛人」の精神と使命感を備えた教育者・保育者となり地域の教育・保育に貢献でき得る力を身につけることを目指す。	1	30	0
幼稚園実習	建学の精神「敬天愛人」の精神と使命感を備えた教育者・保育者を目指し、教育・保育の現場において子ども理解を深め、子どもや保護者を支援する方法を身に着けることを目標とする。実習を通して幼稚園教育全般についての理解をいっそう深め、教職に対する意志ならびに保育者としての資質・能力・適正を確認し保育者を目指す自覚を確立する。(1年次30時間・計120時間)	4	90	0	

二)	保育・教職実践演習	深い子ども理解と使命感を備えた教育者・保育者の育成をめざし、“子ども”の発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解のできる教育者・保育者の育成を到達目標とする。	2	30	0
	社会的養護Ⅱ	子どもの権利擁護に基づいた社会的養護の基本的な内容について理解し、施設養護及び家庭養護の実際について学び、児童と家庭を支援する仕組みを理解する。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を学び、社会的養護に関わる相談援助を行うための専門性と技術力を身につける。子どもの虐待防止と家庭支援についても理解し必要な支援を構築するための仕組みと支援力を身につける。	1	30	0
	子どもの健康と安全	各年齢における子どもの心身の特徴を理解し、健康で安全な保育のための実践的な技術を身に着けることを目標とする。さらに個々の子どもの健康問題や課題を判断、理解してコミュニケーションをとりながら、適切に援助できることを目標とする。	1	30	0
	子育て支援	保護者への「子育て支援」を行う際に必要な、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解することを目指す。	1	30	0
	リトミック	リトミックの手法を用いた活動をするための知識と技術の習得を目指す。	2	30	0
	保育所実習Ⅱ/施設実習Ⅱ (選択)	【保育所実習Ⅱ】 既習の教科目や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。保育の計画、実践、記録、自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 【施設実習Ⅱ】 ①児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ④保育士としての自己の課題を明確化する。	2	90	0
	保育所実習指導Ⅱ/施設実習指導Ⅱ	【保育所実習指導Ⅱ】 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 【施設実習指導Ⅱ】 施設実習指導Ⅰ学んだ施設の理解やそこでの実習の意義・目的をふまえて、より実践力につながる保育力を養成する。	1	30	0
	小計		24	630	4
就職支援	キャリアデザインⅢ	幼児教育・保育の専門家としての教育観・保育観を深め、一人一人のキャリア形成を支援する。	1	30	0
合計(2年次)			47	990	4

その他

修了式等※	通常の“教務ガイダンス”、実習・就職に関するオリエンテーションおよび実習報告会に参加する。修了式での資格・免許状の交付のほか、訓練生を対象とした“オリエンテーション”に参加する。		5	
-------	---	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

本学に2年間在学し、免許・資格取得に必要な要件単位を修得したのに対して、修了証を授与する。

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名		大原医療保育福祉専門学校千葉校			分野	保育士
訓練コース		こども保育学科			資格等	保育士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数	
					学	実
講義	一般教養	国語を中心として、手紙・ビジネス文書の書き方、漢字の練習、話し方、敬語の使い方等を学習し、読解力・作文能力を養い、社会人として、また保育士として正しい日本語の使い方を習得する。	2	30		
	ビジネス教養	公務員試験または民間企業における入社試験などに対応できる一般知能科目を中心とした基礎学力の習得を図る。また、適性検査や面接などの対策なども行う。	2	30		
	健康科学	生活習慣と環境との相互作用が、健康状態に与える影響を学ぶ。また、スポーツを文化的視点、生物学的視点、運動学的視点等の様々な視点で捉えることにより、自己の健康・体力づくり及び豊かなライフスタイルについての見識を身につける。	1	15		
	保育原理	保育者となるための基本的な考えを総合的に学習する。保育の意義及び目的を理解するとともに、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について理解を深め、保育の現状と課題を理解する。	2	30		
	子ども家庭福祉	現代社会において子どもがおかれている現状を把握するとともに、現在の子ども家庭福祉の制度及びその役割を体系的に理解する。また、子どもの人権、子どもをとりまく環境、子ども家庭福祉に係る援助活動について理解する。	2	30		
	社会福祉	社会福祉の理念の理解をもとに、わが国の社会福祉の体系、相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。また、社会福祉における子どもの家庭支援の視点について理解を深める。	2	30		
	社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の理念と概念や歴史の変遷について理解し、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について学習する。また、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。	2	30		
	保育者論	保育士として欠くことのできない資質能力や保育士の制度的な位置付けを理解する。また、保育者の役割や倫理、専門性を考察するとともに専門職間及び専門機関との連携、保護者や地域社会との連携・協働についても理解を深める。	2	30		
	子どもの理解と援助	子どもを理解するための具体的方法や保育士としての援助や態度の基本について理解する。保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について学ぶ。	1	30		
	乳児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷、保育所・乳児院・家庭の現状を把握し、それらの果たす役割、担当する保育者としての役割を理解する。事例をもとに、保育士として必要な乳児保育の理論・知識、乳児期における大人の役割等を理解し保育現場での具体的課題を学ぶ。	2	30		
	子どもの健康と安全	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ感染症対策や体調不良等に対する対応方法、衛生管理並びに安全管理等を学ぶ。	1	30		
	言語表現	言語表現に関する基礎を理解し、発達段階に応じた教材の選び方を学ぶ。また、演習を通し絵本・紙芝居の読み聞かせ、素話の技術などを身につける。	1	30		
	レクリエーション概論	レクリエーションの意義と歴史・使命・仕組み等、制度について理解を深める。また、現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる(活用ができる)具体的な場面について理解を深める。	2	30		
	児童レクリエーション概論	形態別のレクリエーション技術について理解するとともに、演習も交えて児童の年齢に応じたレクリエーション方法(歌、集団ゲーム遊び、野外遊びなど)を学習する。また、四季を感じさせる童謡(合奏・合唱など)も身につける。	2	30		
こどもと音楽	音楽理論の基礎を学習する。楽譜の読み方、音程、音階、和音、こどもにとっての音楽の必要性などを学び、音楽の基礎的な力を身につける。	1	15			
鍵盤奏法の基礎	音楽を通し、表現による情操を養うことを目的として、ピアノや電子楽器などを用い、鍵盤奏法の技術を習得する。また、保育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及び技術などを学ぶとともに、入学以前の音楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った学習を行なう。	2	60			
小計			27	480		
実	情報リテラシーと処理技術	パソコン(Word・Excel)の基本知識及び基本的操作技術を習得し、業務における様々な目的に応じて、柔軟かつ効率良く対処できる能力を習得する。	2	60	60	
	スポーツ(実技)	各種スポーツ能力の向上、更には自己の健康・体力を適切に管理できる能力を養う。また、縄跳び、マット運動等の幼児期に必要な運動能力などについても学ぶ。	1	30		
	保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」保育の内容」に関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。	1	30		
	保育内容(健康)	乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」について学ぶ。乳幼児期の子どもの心身の発達・発達の基礎として何が必要であるか、そして発達のために保育者としてどのように援助するべきかについての視点とかかわり方を演習を通して具体的に学ぶ。	1	30		
	保育内容(人間関係)	乳幼児が他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人とかわる力を養う領域「人間関係」について学ぶ。演習を通して乳幼児の遊びや生活全体を通して「豊かな人間関係」や「身近な人と気持ちが通じ合う心」を育むための保育士の留意点や配慮すべき事項を学ぶ。	1	30		
	保育内容(環境)	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う領域「環境」について学ぶ。乳幼児が遊びを通して環境と主体的・直接的に関わることにより、生きる力を獲得していくことを理解し、その環境の中で子どもの遊びとは何か、を学ぶ。	1	30		
	保育内容(言葉)	乳幼児が経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う領域「言葉」について学ぶ。そして乳幼児が園生活を通して豊かな言葉を獲得していくためには、保育者がどのように援助し役割を果たせばよいかを、演習を通して考える。	1	30		

技 (演習)	保育内容 (表現)	乳幼児が感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする領域「表現」について学ぶ。乳幼児の健やかな成長を促し、個々の表現活動を認め個性を伸ばしていくことが重要であり、演習を通して具体的な実践方法を学ぶ。	1	30	
	造形表現1	演習授業内で使用する各課題での素材の特性を実際の作品制作の中で経験し、その経験の中から発達段階にある乳幼児の表現に対する指導方法を学ぶ。子どもが自由に発想し制作する作品に対する理解力や対応力を身につける。	1	30	
	音楽とリズム	楽譜の読み方、音程、音階、和音、リズムなどの学びを活用し、音楽による基礎的な表現力を身につける。また、童謡や手遊びを題材に入れ、歌唱教育の技術を習得すると同時に身近な自然やものの音や音色について学ぶ。	1	30	
	保育実習 I ①	保育所の生活に参画し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務、関連職員との連携について理解を深める。また、現場で直接学べる貴重な時間であることを意識し、実践を通じて保育内容や環境への理解、保育計画と記録の重要性への理解を深める機会とする。	2	80	
	保育実習指導 I ①	保育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。実習の意義・目的、実習内容並びに実習日誌の書き方、乳幼児保育の理解、実習生としての基本的な心構えや姿勢を習得する。また、事後指導として、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。	1	30	
	レクリエーション指導法	レクリエーションについて理解を深め、計画・実施・評価の方法、安全管理について学習し、演習を通して、そのあり方や、主体的に活動を起こす具体的な展開方法などを身につける。また、レクリエーション財(音楽、遊び、環境、様々な道具等)への理解を深め、レクリエーションの指導方法を習得する。	2	60	
	定期試験	単位修得の為の試験		30	
	保育イベント	オペレッタ発表会、クリスマス発表会などの保育行事運営など		30	
	小計			16	560
就職支援	就職支援 I	1年次に、就職とは何か、自己分析、自己PRの作成、校長講和、企業セミナー等就職活動の全体把握、就職活動の身だしなみの確認などを行う。また、ジョブカード作成アドバイザーによる個別面談を実施する。		30	
	合計(1年次合計)			43	1070

その他

入校式等※			20	
-------	--	--	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

<p>学則:(単位授与)</p> <p>第20条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>2. 介護福祉科及びこども保育学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき認定する。</p> <p>(1) 授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者 授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、及び介護実習・保育実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定を行わないこととする。</p> <p>(2) 授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者</p> <p>(3) 介護実習・保育実習については、実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者</p> <p>学則:(進級)</p> <p>第23条 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修および単位の修得を行い、かつ、出席状況等学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p>
--

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名		大原医療保育福祉専門学校千葉校			分野	保育士
訓練コース		こども保育学科			資格等	保育士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パ/コン 使用時間数	
	学	教育原理	教育の目的・内容・方法及び子ども家庭福祉との関連性について理解するとともに、教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に学ぶ。また、生涯学習時代のあり方についても触れる。	2	30	
子ども家庭支援論		子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、子ども家庭支援の現状や課題について学ぶ。子育て家庭のニーズを理解し、保育士として専門性を生かした多様な支援の展開や関係機関との連携について学ぶ。	2	30		
科 (講義)	保育の計画と評価	園生活の代表的な保育内容、あるいは保育活動を例にとりながら、保育の計画と評価の基本を学ぶ。全体的な計画と指導計画の意義と方法を理解し、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の基本を押さえ、子どもの理解に基づいて計画を立てる際の要件を学ぶ。	2	30		
	小計		6	90		
訓練の内容	子どもの食と栄養	養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの食生活、栄養に関する基本的知識を体系的に理解するとともに、特に保育の実際との関連において実践的な知識・理解を深める。また、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解する。	2	60		
	保育の心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解し、子どもへの理解を深める。養護及び教育の一体性、発達に即した援助を学び、乳幼児期の子どもの学びの過程、特性を踏まえた人との相互的関わりや体験、環境の意義を学ぶ。	2	30		
	子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基本的な知識を習得し初期経験の重要性や発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義と機能、子育て家庭を取り巻く社会状況、子どもの精神保健とその課題について理解する。	2	30		
	子どもの保健	子どもの身体的な発達・発達と健康について理解する。また、子どもの健康管理のために、医学的な基礎知識を理解するとともに、疾病への適切な対応やその予防対策、他職種間の連携・協働について理解を深める。	2	30		
	身体表現	子どもの発達と運動機能に関する知識を学び、演習を通して、運動遊びの実践や、見立て遊びやごっこ遊び、劇遊びなど遊びの教育的意味について理解を深める。	1	30		
	障害児保育	障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及び特別な配慮を要する子どもの保育や家庭の支援について理解する。その上で、具体的な援助の方法、環境構成、保育計画について理解を深める。また、各関係機関との連携及び保健・医療・福祉・教育等の現状と課題についても理解を深める。	2	60		
	社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について具体的に理解し、かつ、施設養護及び家庭養護の実際についても理解を深める。また、社会的養護における計画、記録、自己評価を理解し、相談援助の方法・技術や子ども虐待防止について学ぶ。	1	30		
	子育て支援	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援とその実際を実践事例等を通して具体的に理解する。	1	30		
	保育実習Ⅰ②	児童福祉施設等の生活に参画し、観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。子どもの心身の状況に応じた対応、生活環境への理解を深め、専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ。また、実習を通して支援計画、記録の重要性を理解する。	2	80		
	保育実習指導Ⅰ②	保育実習指導Ⅰ①を踏まえ、児童福祉施設実習に対する基本的な事項の確認と新たな実習課題の決定、課題達成に必要な準備を行なう。また、事後指導としては、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。	1	30		
	保育実践演習	保育に関する教科目及び保育実習等の経験を踏まえ、自らの学びを振り返る。グループ討議や研究発表形式により様々な視点から今後の保育の課題等について学習すると同時に、自己の課題を明確にし、目指す保育士像や今後に向けた自己の取り組みについて考える。	2	60		
	造形表現2	物を作る活動・表現行為の中から、創作(表現)の喜びを味わう。また、保育者としての援助のあり方・教材研究などの基礎を学ぶための演習として、折り紙・製作・絵画などの手法を用いて、それらのものを体感することを目標とする。	2	60		
	音楽表現1	音楽やリズムを身体を通して感じ、考え、音楽表現に必要な技術とその方法論の基礎を学ぶ。また、保育の現場で活用する手遊びや歌遊び、身体創作表現など具体的な教材を通して、表現意欲を養い、創造性を豊かに実践力のある保育者としての資質能力を形成する。	1	30		
	鍵盤奏法の応用	鍵盤奏法の基礎で学んだ技術を生かし、即興演奏法を身につけ、コードによる伴奏や楽曲の創作等ができるように、技術力の向上を目指す。また、弾き歌いを通じ、保育者の基本技能を身につける。	2	60		
	保育実習Ⅱ	保育所において、更に乳幼児への理解、保育士の職務、関連職員との連携等への理解を深める。実習では参加実習や部分実習、指導実習の段階を経て実践力を身につけ、責任実習を行なう。保育計画と指導計画、日案の理解と実践、乳幼児保育の担当、保育士としての役割・技術などを習得する。	2	80		
	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅰを踏まえ、乳幼児に対する更なる理解を深める。これまでの実習を統括的に捉え、施設運営や保育士の職務内容を理解した上での保育(養護)技術を習得する。さらに、演習を通して保育所の意義と今日的役割を理解し、保育士を志すものとして自覚を高める。	1	30		
	卒業研究	2年間の集大成として、各人がそれぞれにテーマを掲げ、自己の研究課題に取り組み、研究発表により成果を残す。	1	30		
	定期試験	単位修得の為の試験		20		
	保育イベント	ピアノ発表会、オペレッタ発表会、卒業発表会などの保育行事運営など		30		
	小計			27	810	

就職支援	就職支援Ⅱ	2年次において、就職活動の手引き、就職活動のスケジュールについて説明を行う。「福祉就職フェア」への参加と準備、必要書類の作成と確認、面接トレーニング、就職活動マナーのレクチャー、ジョブカード作成及びキャリアコンサルティングを行う。		60	
合計(2年次)				960	
その他					
修了式等※				20	

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

学則:(単位の授与)

第20条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。

2. 介護福祉科及びこども保育学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき認定する。

(1) 授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者

授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、及び介護実習・保育実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定を行わないこととする。

(2) 授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者

(3) 介護実習・保育実習については、実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者

学則:(卒業)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限(2年)以上在学して、下記に定める授業時間数以上履修し、かつ下記に定めるところにより授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

こども保育学科は、1,710時間(72単位)

2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名		千葉明德短期大学			分野	保育士
訓練コース		保育創造学科			資格等	保育士
		科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数
学 科		日本国憲法	憲法が作られた経緯を知り、そこから生まれた基本原則を確認。人権、国の統治の在り方を考えるとともに、日本の将来の在り方を憲法がどう示しているかを考える。	2	30	
		メディア・コミュニケーション	事例を挙げながら情報の取り扱い方について考える講義と、卒業後に職場で求められるPC技能取得のため、PCを用いて課題に取り組む演習を行う。	2	30	24
		オーラル・コミュニケーション I	保育現場での会話、子育てに関する用語などに関する英語による基本的な表現を習得する英語または、会話力を身に付けるとともに古典、文化や生活習慣などにふれることで異文化を知る中国語の選択。中国語においては基礎となるピン音から学ぶ。	2	30	
		体育(理論)	体や生活習慣についての情報を知り、自身が生き生きとした生活をするについて理論的に理解し、“体を育む”ことを観点に、保育者の役割について考える。	1	15	
		教養基礎演習	学生の「主体的に学び・考え・行動する」意欲の醸成、社会人として必要な「基礎的・汎用的能力」の育成のため、地域社会や保育現場での体験学習を行い、グループディスカッションなどでの振り返りを通して問題解決の方法を習得する。	1	15	
		教養総合演習	学生の「主体的に学び・考え・行動する」意欲の醸成、社会人として必要な「基礎的・汎用的能力」の育成のため、特定のテーマに基づいた少人数での体験学習を行い、グループディスカッションなどでの振り返りを通して問題解決の方法の定着を図る。	1	15	
		キャリアデザイン I	グループディスカッションを通し、様々な職業の社会の中での位置づけや役割に対する理解を深めるとともに、自身が将来どのように社会とかわっていききたいかを考える。	1	15	
		教育原論(教育に関する社会的、制度的事項を含む)	学校以外での教育について考え、教育について基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、児童福祉との関連性を理解する。今日の学校というシステムを見つめ直し、生涯学習の実践にふれ、人が育っていくということの本質を考えていく。	2	30	
		保育原論	保育の意義、内容と方法の基本について理解するとともに保育所保育指針における保育の基本や歴史的変遷について理解する。また、保育界が置かれている現状についても学ぶ。	2	30	
	発達心理学(講義)	実習等で出会った子どもの姿や自分の発達と具体的に結びつけ、エピソードを多く紹介しながら、子どもの発達に関する心理学の基礎知識を学び、子どもへの理解を深め生涯発達の観点から発達について理解し、保育との関連について考える。	2	30		

訓練の内容

	発達心理学(演習)	実習等での子どもの生活やあそび、保育者の援助、子どもの発達を具体的に結びつけながら、一人ひとりの子どもの発達を考慮した保育実践について理解し、保育における発達援助について学ぶ。	1	30	
	こども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、親子関係や家族関係について発達の観点から理解する。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的な状況や、子どもの精神保健等について理解し、その課題について学ぶ。	2	30	
	カリキュラム論	実習を通して目にしてきた、保育現場で展開される保育の計画について、そのあり方を学び、自分でも作成することを試みる。また、保育におけるPDCAサイクルについてその全体構造を能動的に捉え、理解する。	2	30	
学 科	乳児保育 I	乳児保育の理念や社会的な役割と背景について学ぶと共に、現状と課題について理解する。また、乳児の発達と生活や遊びを理解し、その特徴に配慮した保育の方法や内容を、映像や実践例を用いながら学ぶ。	2	30	
	乳児保育 II	保育体験の一つとして行う乳児保育ボランティアと関連させながら、乳児保育の内容と方法を学ぶと共に、個々の生活リズムを大切に乳児保育の計画や環境構成等の実際を学ぶ。また、保護者との連携の実際や留意点等を知ると共に、命を育む責務を理解する。	1	30	
	特別支援保育 I	「障害がある子ども(人)」とのかかわり方に漠然と不安を開示している人も多いと思います。この授業では、まず各障害の特性について映像を交えながら丁寧に理解していきます。また、彼らの内面世界をより理解するために様々な疑似体験を行います。	1	30	
	こどもの保健(講義)	子どもの心身の健康や保健活動の意義と目的について理解する。また、身体の発育や生理機能及び運動機能、精神機能の発達について理解し、子どもの疾病とその予防法及び保育者としての適切な対応に関する基礎的な知識を学ぶ。	2	30	
	こどもと環境	こどもを取り巻く環境と現代的課題を踏まえたうえで、こどもと身近な環境とのかかわりの発達や内容ごとの知識・技能を学ぶとともに、領域「環境」の指導で必要となる感性・視点を養う。	1	15	
	こどもと言葉	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。人間にとっての「言葉」の意義と機能について理解したうえで、幼児の言葉を育て、言葉に対する間隔を豊かにする知識を身に付ける。	1	15	
	こどもと表現	「あそび基礎演習 I」の授業の中で、自らが体験し学んだ表現活動等をもとに、表現とは何かを熟慮する。保育現場や乳幼児の具体例に触れ、保育者としての専門的支店や知識を学ぶ。また、幼児の表現の発達家庭についても学ぶ。	1	15	
	保育内容演習(言葉と表現)	実際に子どもと関わったり、保育者の子どもとのかかわり等に触れる体験の、学生によるレポートを通して保育内容を「言葉」及び「表現」の領域に焦点をあてつつ総合的に学んでいく。	2	60	
	保育内容演習(健康と人間関係)	実際に子どもと関わったり、保育者の子どもとのかかわり等に触れる体験の、学生によるレポートを通して保育内容を「健康」及び「人間関係」の領域に焦点をあてつつ総合的に学んでいく。	2	60	

学 科	保育内容演習(環境)	実際に子どもと関わったり、保育者の子どものかかわり等に触れる体験の、学生によるレポートを通して保育内容を「環境」の領域に焦点をあてつつ総合的に学んでいく。	1	30	
	保育者論 I	保育者を志すにあたり、保育者とは何か、その役割や倫理、職務の内容等を学ぶ。また、保育士及び幼稚園教諭の制度的位置づけを知ると共に、保育者に求められる資質を考え、保育者となるための道筋や必要な知識及び技術について理解する。	1	15	
	教育実習(実習指導)	教育実習の意義や目的、心構えなどの基本的な事項及び他科目との関連性を確認し、学生個々の実習における課題を明確にする。また、幼稚園教育における記録と計画の意義や方法を学び、自身が実践するための具体的準備を行う。実習後に振り返りを行い自身の課題等について考察する。	1	30	
	保育実習指導 I	保育実習の意義、目的を理解し、保育実習に取り組むための事前準備を行うとともに、実習後は記録や体験を基に仲間同士で振り返り、実習を通して何を感じ、考えたのか、まとめを行う。	2	60	
	あそび基礎演習 I	身体・音楽・造形・言語表現等の観点から、様々な遊びとして現象される具体的な保育の内容を取り上げることを通して、保育の内容を理解する。また、遊具や用具、素材や教材等の特性を理解するとともに実践的に活用及び作成し、保育を展開するために必要な知識や技術を習得する。	2	60	
	あそび基礎演習 II	身体・音楽・造形・言語表現等の観点から、様々な遊びとして現象される具体的な保育の内容を取り上げることを通して、保育の内容を理解する。また、遊具や教材等を実践的に活用及び作成し、子どもの遊びや経験と様々な表現活動とを結びつける展開のために必要な知識や技術を習得する。	2	60	
	社会福祉	「現代社会における社会福祉の意義と歴史」「社会福祉のあり方や現状・理念」「社会福祉における相談援助や人権問題の視点など」について学び、理解する。	2	30	
	こども家庭福祉	現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について学び、制度や実施体系等について理解すると同時に、育児不安、児童虐待などの子育てにおける課題についても理解を深める。	2	30	
	社会的養護 I	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学び、制度や実施体系について理解すると同時に、現代の子育てをめぐる社会状況や児童福祉施設の現状を学び、今後の社会的養護及び保育士のあり方を考えていく。	2	30	
		訓練時間小計		52	960
実	体育(実技)	子どもたちの心身の発達を促す運動遊びを実践的に学ぶとともに、運動遊びの展開方法を考え、実践し、子どもたちが楽しく体を動かし、多様な動きを経験できる支援の方法を学び合う。	1	30	
	保育実習 I (保育所)	保育所において90時間以上の実習に取り組み、保育所の基本的な役割や機能等について理解し、子どもへの理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	2	90	

技	保育実習 I (施設)	社会福祉施設において90時間以上の実習に取り組み、施設における社会的養護について基本的な役割や機能等について理解する。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	2	90	
	訓練時間小計		5	210	
就職支援		キャリアデザイン I に含む			
合計(1年次合計)			57	1,170	24

その他

入校式等※			8	
-------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

なし

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	千葉明德短期大学			分野	保育士
訓練コース	保育創造学科			資格等	保育士
	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン 使用時間数
学 科	オーラル・コミュニケーション Ⅱ	保育現場の様々な場面を想定したダイアログを学習し、実習に関するアドバイス、実習生の日記を読み、声掛けを英文作成し、さらに英語圏の子ども文化を学ぶ。また、手遊び唄を練習し、絵本を読み、保育現場での活用方法も紹介する。演習中心の授業を行う。	2	30	
	現代社会論	現代社会を構成する様々な要素とその現状、要素間の相互関連性を理解するとともに、現代社会における自分の「立ち位置」を探求・確認し、理解する。	4	60	
	キャリアデザインⅡ	地域社会や保育現場での体験学習や、保育所・幼稚園での実習などの実践的な経験と、事後における振り返りを通して、自身の社会における将来像を具体的に検討し、どのような形で社会と自己との関係性を構築するのかを考える。	1	15	
	保育内容総論	保育内容の5つの領域から総合的に捉える視点を養い、保育現場の具体的な事例から保育所や幼稚園の園生活の実態を理解し、同時にそれらの園の環境・子ども理解・保育内容・保育者の援助・指導計画(保育計画・教育課程)といった観点から検討して、保育を営む実践的な力を修得する。	1	30	
	こどもの健康と安全	保育施設でこどもが健康で安全に生活するために必要なことについて事例を通して学ぶ。具体的には、保育における保健的な対応や健康・安全管理のための実施体制などを学ぶ。	1	30	
	特別支援保育Ⅱ	保育における「出会い」の多様性と深さに気づき、障害児とともに生きる保育を学ぶ。テキストの中から心に留めたい文章、エピソード等を精選し保育を語る自分の言葉及び、自分の障害児保育観の視点を探求する。	1	30	
	こどもの食と栄養Ⅰ	子どもの生活の基本であり、心身の健康な発達を支える食生活の現状と意義、栄養に関する基礎的な知識を修得する。また、子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、調乳や保育者として知っておくべき調理の基本について具体的に学ぶ。	1	30	
	こどもの食と栄養Ⅱ	子どもの発育・発達と食生活について理解を深めると共に、食育の基本とその内容を知り、地域・文化や現代社会との関連という視点から食育を考える。また、家庭や保育現場における食生活の実態、疾病やアレルギーなど、特別な配慮を要する子どもへの対応を学ぶ	1	30	
	子育て支援	地域の子育て家庭に対する相談や助言、援助の担い手としての役割を担う保育士として、身につけておくべき知識や基本的な姿勢を学ぶ。また、保育所等における保護者支援の実際について理解する	1	30	

訓練の内容

	こどもと健康	こどもを取り巻く生活環境と体との関係について理解し、こどもたちと共に生活をする保育者として、自らの健康な心と体、安全な生活を作り出す領域「健康」の基盤となる知識と技能を身に付ける。実習で出会ったこどもの姿を振り返り、事例を出し合い、こどもの生活やあそびを通した運動を考え、保育に活かす方法を考える。	1	15	
学 科	保育方法論Ⅰ	保育実習や教育実習等と関連づけながら、子どもの発達やクラスの実態に応じた環境構成や遊びの援助について、実践例を用いて具体的に学び、様々な保育の方法を捉える視点を明確にする。また、それらを計画する基となる記録の意義を理解する。	1	15	
	保育方法論Ⅱ	国内や諸外国の様々な保育方法を学び、それぞれの意義を考察すると共に、保育現場における実践検討の実際を学ぶ。さらに、保育方法として「環境を通して行う保育」「遊びを通しての総合的な指導」について実践的理解を深める。	1	15	
	保育者論Ⅱ	養成課程の最終段階において、これまでの授業や実習等による学修内容をふまえ、保育者の専門性や成長について考察する。実践の検討と評価、保育者同士及び他機関との協働、社会の中で求められる役割と現代的課題、現職研修の在り方などについて理解を深める。	1	15	
	こども臨床学	2年次前期までの授業の内容並びに実習体験をふまえ、保育ならびに現代社会における子どもを取り巻く状況と課題についての整理を行い、臨床的な子ども理解の視点の確立を目指す。	2	30	
	保育・教職実践演習(幼稚園)	主に保育や福祉等、人と関わる現場において就業するために、2年間の実習体験やその他の体験からの学びをつなげ、2年間の学びの集大成となる取組みを行う。また、問題解決のための対応、判断方法についての学びを深める。	2	60	
	教育実習(実習指導)	教育実習の意義や目的、心構えなどの基本的な事項及び他科目との関連性を確認し、学生個々の実習における課題を明確にする。また、幼稚園教育における記録と計画の意義や方法を学び、自身が実践するための具体的準備を行う。実習後に振り返りを行い自身の課題等について考察する。	1	30	
	保育実習指導Ⅱ/Ⅲ	保育実習ⅡまたはⅢのための事前事後指導。保育士としての心構えや態度の習得、子ども理解と援助との関係の理解、専門職として自律する自己の理解を目標とする。実習後は記録や体験を基に仲間同士で振り返り、実習を通して何を感じ、考えたのかをまとめ、これまでの学びの総括も行う。	1	30	
	あそび技能演習	前半は「手遊びおよび簡単なダンス」「パネルシアター制作」「絵本、紙芝居および手遊び」「ちょっとしたゲームや遊び」「歌およびピアノ」「ゲームとダンス」「指導案の作成」のテーマに、少人数グループに分かれて取組み、後半は用意された複数のコースから選択して取り組む。	2	60	
	社会的養護Ⅱ	一年次の様々な社会的養護の場で行ってきた実習体験を踏まえ、施設養護の実際を学び、その支援の内容について具体的に学ぶ。また、社会的養護を通して家庭支援、地域福祉について認識を深める。	1	30	

学 科	こども家庭支援論	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解し、家庭支援の意義と役割について学ぶ。また、子育て家庭の支援体制について学ぶとともに保育士の家庭支援に対する役割について理解する。	2	30	
	専門総合演習	学生の「主体的に学び・考え・行動する」意欲の醸成、社会人として必要な「基礎的・汎用的能力」の育成のため、自らの関心に基づいて保育とそれを取り巻く社会状況に関連するテーマを選択し、少人数でのグループディスカッションを通して、解決すべき課題を発見する。	2	30	
	卒業演習	学生の「主体的に学び・考え・行動する」意欲の醸成、社会人として必要な「基礎的・汎用的能力」の育成のため、専門総合演習で見出した課題についてフィールドワークを行い、分析・検討をする。	2	30	
		訓練時間小計	32	675	
実 技	教育実習(幼稚園Ⅱ)	幼稚園における教育全般に参加し、個々や集団での子ども理解と援助の方法を考察する視点を培う。さらに、指導計画を立案し、実践することでその意義と自己課題を確認する。また、預かり保育や地域の子育て支援活動を展開する幼稚園教育の実際を知る。	3	90	
	保育実習Ⅱ/Ⅲ	保育所または社会福祉施設において90時間以上の実習に取り組み、保育所または社会福祉施設の基本的な役割や機能について実践を通して理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について実践から学び、保育士としての自己の課題を明確化する。	2	90	
		訓練時間小計	5	180	
就職支援		保育内容説明会		8	
		模擬面接(希望者のみ)		(2)	
		ピアノ試験対策(希望者のみ)		随時	
			37	863	0

その他

修了式等※			2	
-------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

本学に2年以上在籍し、「卒業必修」科目から14単位、その他の科目から48単位以上を修得し、教授会の審議を経て学長が認定する。上記科目の他に任意で選択科目を履修可能。

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	東京経営短期大学			分野	保育士
訓練コース	こども教育学科			資格等	保育士
	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン 使用時間数
学 科 (講 義)	保育原理	子どもの育ち、保護者の支援など保育の営みについて、基本となる思想、原理について理解することを目的とする。また、保育のしくみ、保育内容、保育方法など日常の保育活動を支える理論を学び、昨今求められる保育者の役割、保育の専門性などについて理解する。	2	30	
	社会福祉	保育士として、子どもの人権と教育保障を担う者であることを自覚し、最低限の法的知識、制度、実施体系を習得する	2	30	
	社会的養護 I	社会的養護(児童養護施設、乳児院など)と家庭養護(里親制度、養子縁組制度など)の違いを理解し、保育士としてこのような制度に暮らす子どもたちの課題、問題点に光を当て、どのような支援施策が進められているかを学ぶ。併せて施設実習に繋げる動機づけとして捉えられるよう授業を展開する。	2	30	
	乳児保育 I	保育の現場で乳児との生活を作り上げていくために必要な知識と技術を身につけることを目的とし、身近に乳児の姿がイメージできるように、乳児の発達の特徴を理解し、グループワークなどの活動を取り入れながら保育者としての具体的な援助の方法を学ぶ。	2	30	
	保育者論	育者を職業とすることとはどういうことなのか、自己イメージを持ちながら保育職に向き合うための学びを行う。保育者としてのあり方や働き方について理解することを目的とする。	2	30	
	発達心理学	胎児期から乳幼児期における子どもの発達を各側面から学び、発達過程の基本を把握するとともに、各発達段階で生じる問題行動について考えていく。子どもの発達に関する基礎知識を習得し、発達過程を理解することが目的である。	2	30	
	子ども家庭支援の心理学	生涯発達心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解するとともに、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を修得する。あわせて、子育て家庭の抱える現状と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する。	2	30	
	保育・教育課程論	乳幼児の健やかな心身の発達、充実した生活や活動、楽しい遊びを支えるために必要な保育・教育の計画について学習する。特に、保育所の保育課程の編成と、長期の指導計画、短期の指導計画については立案、実践、評価、改善までの全体的な計画構造を理解し、実践に役立てられるようにする。	2	30	
	子どもの保健	現代の子どもを取り巻く環境は多様化しており、このような状況の中で子どもたちの心身の健康を守り、成長発達を支援する保育士・幼稚園教諭の役割は大きい。本科目では、子どものからだの仕組みや機能について、主に乳幼児期にある子どもの特徴を学び、保育実践における保健活動で必要とされる基礎知識を学修する。また、子どもの健康を担う保育士・幼稚園教諭に求められる保健分野での役割と対応を理解する。	2	30	
	体育 I	体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動実践ができるようになることを目的とする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防のための運動や、健康のために必要な体力等に関する理解を深める。	1	15	
日本国憲法	日本国憲法は我が国の最高法規であり、私たちが生活するうえで切り離すことのできない重要な法律である。日本国憲法は、大きく分けると、基本的人権、統治機構、天皇制・平和主義に関する規定に分けられる。これらをバランス良く学び、最低限の憲法の知識を身につけることが目的である。	2	30		

		小計	21	315	0
訓練の内容	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに乳児の保育内容についての知識を深め、保育実践の技術の習得を目指す。 実際の保育現場で必要となる子どもの保健に関する基礎的知識とケアの技能を身につけるための学修を行う。	1	30	
	子どもの健康と安全	本科目の目的は、子どもの発育・発達状態を理解するとともに、子どもの病気の予防や健康教育、疾病の早期発見、救急救命処置と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶことである。 保育原理などの講義形式で学んだ理論について、現場実践へのつながりを具体的にイメージし、理解を深めるための科目である。保育者を目指す学生にとって、広く深い学びにつながるようアクティブラーニングを多く取り入れて実施する。	1	30	
	保育内容総論	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりやその関わりについて学ぶ。	2	60	
	子どもと環境Ⅰ	人間関係領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して人間関係の発達や指導が理解できるようにする。	1	30	
	子どもと人間関係Ⅰ	健康な心と身体を育て、子どもたち自らが健康で安全な生活をつくり出すことができるように、子どもの健康につながる基本的な生活習慣に関する知識と指導・援助方法を学ぶことを目的とする。また、心身の健康を促す運動とあそび、心身や健康や成長・発達に影響する環境適用との関連等についても学ぶ。	1	30	
	子どもと健康Ⅰ	子どもの発達において「ことば」は、コミュニケーションの手段、行動の調整、考える道具として非常に重要な役割をもっている。本科目では、ことばについて子どもが興味や関心を広げ、より良い成長を促すために、保育者がことばの観点から深く保育について考察できることを目的とする。	1	30	
	子どもと言葉Ⅰ	保育者として子どもの感性と表現の育ちを支援・援助できる能力を養うことを目的とし、身体表現を中心に授業を展開していく。学生自身が表現活動を実際に体験することで、表現者としての自分自身を成長させ、同時に保育者として子どもの表現活動の理解も深められるよう授業を展開していく。	1	30	
	子どもと表現Ⅰ	子どもたちにとって音楽とは、自由で楽しく、人格を豊かにするものである。本科目では、保育の現場で必要とされる音楽の基礎理論について、楽譜の読み方、書き方、音価、記号、音程、コードなど楽典の知識を修得するとともに、歌唱や器楽、鑑賞や創作等、様々な教材についての知識を修得することを目的とする。	1	30	
	音楽Ⅰ	道具を必要としない最も自然な表現手段「声」について正しい発声法を学修し、保育及び教育現場でよく歌われる「季節の歌」を多く歌い知る。また「声」を使った表現を通して、友達と積極的に関わりながら喜びを共感し合うことの体験を、保育及び教育現場での子ども達の歌唱表現指導に生かすことを目的とする。	1	30	
	声楽Ⅰ	1.保育士及び幼稚園教諭のための、造形表現の基礎的な実践を行う。 2.保育現場で使用する様々な材料や用具の扱い方や造形表現に関する知識や技能を身につける。 3.造形活動の中での重要な事は「表現をする楽しさ」である。楽しく表現を行うという事を演習の中で学ぶ。	1	30	
	図画工作Ⅰ	保育士・幼稚園教諭として運動あそびを指導・援助できるように、幼児の運動でみられる基本的な動きを「移動系」「平衡系」「操作系」「非移動系」に分け、いろいろな動きを経験する。さらに、幼児が楽しく意欲をもって活動をし、充実感や満足感が味わえるように、環境や方法を工夫した運動を指導・援助できる能力を養うことを目的とし、授業を展開していく。 授業のまとめとして、実践力を養うために、グループで教材研究や運動の指導計画を作成しロールプレイを行う。	1	30	
	幼児体育Ⅰ	保育所及び施設における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての事前事後指導を行う 実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、養護と教育を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する。	2	60	
保育実習指導Ⅰ	実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、養護と教育を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する。	2	90		
実技(演習)	保育実習1A(保育所)				

	保育実習1B(施設)	実際の児童福祉施設における保育・養護の実際の場面で、児童の日常生活・介助・援助をはじめ、生活指導・遊び・学習指導、保健指導等、日常生活の維持と心身の発達に直接かかわることを体験的に学ぶ。	2	90	
	器楽演習 I	子ども達の豊かな感性や表現力を養い、創造性を豊かにするために、本科目では保育者に求められているピアノ実技の基礎を学修することを目的とする。また各学生の実力に合わせて、レベル別伴奏で、春・秋の歌、生活の歌の弾き歌いを学ぶ。	1	30	
	基礎ゼミナール	社会で活躍するための実践的知識・技能である「社会人基礎力」を身に着けることを目的としている	2	60	
	コンピュータ I	文書処理ツール(Word)の基本的な処理操作を、演習を通して身につける。現在、情報技術の発展により、新しい保育・教育の在り方が必要とされています。そこで、現場で活用することができる文書作成のスキルを習得すること、そして将来子どもと接する上で求められる情報リテラシの基礎を固めていくことを、本授業の目的とする。	1	30	30
	コンピュータ II	表計算ソフト(Excel)とPower Pointの基本的な処理操作を、演習を通して身に付けます。表計算ソフトは、実際の教育現場で活用することができる、より実用的なスキルを中心に、そしてPower Pointは、学生生活または教育現場に出る上で、求められる最低限のスキルを習得します。さらに将来子どもと接する上で必要となる情報リテラシの基礎を固めていくことを、本授業の目的とします。	1	30	30
	英会話	日常での簡単な英語表現はもちろん、特に保育の現場での英語表現法を学ぶ。幼児教育の現場を細かくシチュエーション分けし、その場に応じた具体的な英語表現について学ぶ。保育士と幼児、保育士と保護者など、その場に応じた英会話の例を挙げ、実際にシミュレーションし、発話を行いながら体感的に身に付けていく。	2	60	
	体育 II (実技)	体育の実践方法を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動が実践できることを目的とする。本授業は、グループ学習とし、特にバドミントン、ターゲットゴルフ、卓球、フットサル等の各種の運動実践を通して運動の楽しさを実感するとともに、体調管理や体力の向上を図る。	1	30	
	小計		27	870	60
就職支援	キャリアデベロップメント	本授業は①東京経営短期大学の学生として②保育・幼児教育者を目指すものとして、③2年後には社会の一員として、今をそして将来をどのように生きていくかを考える。本学での学びにスムーズに移行できるよう、建学の精神を学ぶとともに、基本的な学習スキルを身に付けることを目的とする。さらに自分自身を知り、社会人としての基礎力の習得も合わせて目指す。	2	30	
	キャリアデザイン	保育・幼児教育者及び児童福祉施設等の職員或いは、その他関連職種に従事するための将来の進路選択を明確にする。その上で、働くことの意義や自己理解を深める中で、自分の求める就職をするために必要な能力を養う。	2	30	
合計(1年次合計)			52	1245	60

その他

入校式等※			5	
-------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

--

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	東京経営短期大学			分野	保育士
訓練コース	こども教育学科			資格等	保育士
	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン 使用時間数
学 科 (講 義)	子ども家庭福祉	今日の子どもたちをめぐる諸問題と社会的な背景を理解する。 子どもと家族をサポートするための福祉制度や法律などの基礎を学ぶ。 子どもの権利とは何かについて学ぶ。 子ども虐待対応の基礎について学ぶ。	2	30	
	教育原理	「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。授業では、教育原理、教育の意義、現代の教育問題など広範囲に渡って概説する。	2	30	
	子ども家庭支援論	保育士の持つ家庭観を考えるとともに、時代の中で変化する家族関係や家族援助の枠組みについて学び、保育所における子育て支援や、障害を抱える子どもとその家族への援助等の各論について、家族援助の事例を交えながら理解を深めることが目的である。	2	30	
	小 計		6	90	0
	特別支援教育・保育概論	発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児が、日常における保育活動に参加している実感・達成感を持ち、生きる力を身に付けていくことができる保育のあり方を考える。特別支援教育・保育の理念と障害の基礎知識を理解し、障害の定義・特性、障害乳幼児の保育、援助、環境構成、保護者支援等について学び、特別支援教育・保育の現状と課題に焦点をあてながら、障害のある子どもの保育について理解を深めることが目的である。	2	60	
	社会的養護Ⅱ	「社会的養護Ⅰ」科目では、子ども達の暮らす「社会的養護の現状及び課題」を習得した。本授業では、それを基に、具体的には個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活の支援・自立支援等の方法と技術を理解するとともに、保育者としての支援力を習得する。授業は演習方式で少人数のグループを作り、各事例に関するグループワークを行う。	1	30	
	教育相談・子育て支援	保育を実践するうえで、専門知識や技術を習得すると同時に、保護者への子育て支援として育児相談など相談業務も欠かせない。保護者に対する相談支援、保育指導も含め、そのニーズは高まっている。そこで、教育相談・子育て支援では、「教育相談とは何か」について理解し、カウンセリングマインドの構築、保育者の専門性を生かした支援の在り方、保護者支援の方法と技術などについて知見を深める。	1	30	
	子ども理解と援助	一人ひとりの子どもを理解するための基本的な考え方や、生活や遊び、保育環境、個と集団の育ちなど多様な視点から子どもを理解する方法について学びます。皆さんの保育に対する可能性を広げ、記録を通した子ども理解ができることを目的としています。	1	30	
	子どもの食と栄養	子どもの発達段階に応じた食生活や栄養の役割について理解し、保育の立場から具体的な食との関わりあい方を習得する。また、子どもの成長に応じた栄養について実習を行い知識と理解を深める。近年、増加傾向である生活習慣病や食物アレルギー等、食に関する問題を持つ子どもや障害を持つ子どもへの対応や、個々の発達段階にあった食品の選択や調理法、食事の与え方等適切な判断ができる能力を養う。	2	60	

訓練 の 内容	実 技 (演 習)	子どもと環境Ⅱ(指導法)	現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現できる過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。	1	30
		子どもと人間関係Ⅱ(指導法)	1年次で学んだ「人間関係」を基本に学ぶ。1年次の理論的な部分に重点を置いた「人間関係」に対し、2年次の「人間関係」は実際の保育者としての活動を前提とした対応を考察することに重点を置く。	1	30
		子どもと健康Ⅱ(指導法)	「子どもと健康Ⅰ」授業理解をさらに発展させて、実際の保育における子どもたちの健康の育成を援助でき、子どもたち自らが健康で安全な生活をつくり出すことができるように、子どもの健康につながる基本的な生活習慣に関する知識と指導・援助方法を実践できることを目的とする。発達段階に応じて、健康の観点から適切な保育実践ができることを最終目標とする。 具体的にはグループ学習とし、領域健康における内容をきちんと理解し、その実践や望ましい場面での設定などを心身の健康や成長・発達に併せて復習しながら、実践方法を実習形式で具体的に学ぶ。	1	30
		子どもと言葉Ⅱ(指導法)	「人と人をつなぐ」ことを学びの中心に据える。その上で、子どもと学生の感性豊かな成長を促すために、読み聞かせやわらべうた、ごっこ遊びへの展開を学び、実践に役立つ力を身につけていく。その上で、指導技術をはじめ具体的な指導方法について理解を深め、模擬授業や指導案作成、教材研究を行う。	1	30
		子どもと表現Ⅱ(指導法)	保育者として子どもの感性と表現の育ちを支援・援助できる能力を養うことを目的とし、身体表現を中心に授業を展開していく。学生自身が表現活動を実際に体験することで、表現者としての自分自身を成長させ、同時に保育者として子どもの表現活動の理解も深められるよう授業を展開していく。 また、模擬保育を通して指導計画・環境設定・言葉かけなどの具体的な指導方法について指導をする。	1	30
		保育実習指導Ⅱ又はⅢ	保育実習Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設)の事前事後指導を行う。 保育実習ⅠA(保育所)ⅠB(施設)の学びを踏まえ子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるようにする。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるようにする。	1	30
		保育実習Ⅱ又はⅢ	保育実習ⅠA(保育所)ⅠB(施設)で学んだ保育現場・施設現場での体験的学習と専門科目の学習を踏まえて保育を実施することで、さらなる保育士としての資質、能力、技術の向上を目指す。さらに家庭や地域社会で果たす保育所や施設、保育士の役割について理解を深め、保育士としての識見や判断力を養う。	2	90
		器楽演習Ⅲ	器楽演習Ⅰ及びⅡで学修したピアノ基礎技術と弾き歌いの表現力を、実習を念頭におきながらそれに向けてさらに向上させ、定着させることを目的とする。実習園からの課題曲、実習で良く使用される生活の歌のレパートリーを増やす。	1	30
		保育教職実践演習	これまで学んできた教育・保育の理論や技術、教育実習や保育実習で得た学びを、個別の履修カルテを通して振り返り、自己の課題と学習内容を明確にすることを目的とする。また、保育者に求められる資質能力や使命感・責任感、子どもの理解や保育活動における指導力が確かなものとなるよう、各自が事例研究やロールプレイングを通して、教育者・保育者としての意識の向上を図る。	2	60
		専門ゼミナール	ゼミナール担当教員の専門性の上から、進路について指導助言を受け、同じゼミの仲間と進路決定に向けた実践的研究活動に励む	2	60

		小計	20	630	0
就職支援	キャリアサポート	就職先(進路)を決定し、それについて必要な知識・技能を身に付ける。 ビジネス・シーンに必要な基本的マナーの学習を通してコミュニケーション力の向上を図るとともに、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目指す。社会人に求められる常識、言葉遣いと話し方、立ち居振る舞い、接客対応を習得する。 さらに、保育者を志す者として教育現場でのマナーも学習する。	2	30	
	ビジネスマナー		2	30	
合計(2年次)			30	780	0

その他

修了式等※			2	
-------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

<p>卒業要件</p> <p>(1) 必修科目42単位をすべて取得していること</p> <p>(2) 必修科目以外で、「基礎科目」「専門科目」及び「その他の科目」から20単位以上修得すること</p> <p>(3) 上記(1)(2)の取得単位合計をあわせて62単位以上修得済みであること</p>
--

委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名		昭和学院短期大学			分野	保育士
訓練コース		人間生活学科 こども発達専攻			資格等	保育士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数	
	学 科 (講義)	キャリアデザイン論	卒業必修科目	2	30	
		日本国憲法	幼稚園教諭免許状必修科目	2	30	
食生活論		卒業のための選択必修科目	2	30		
生活学		卒業のための選択必修科目	2	30		
子ども家庭福祉		卒業必修科目	2	30		
保育の心理学		卒業必修科目	2	30		
幼児理解(カウンセリングを含む)		卒業必修科目	2	30		
乳児保育 I		保育士資格必修科目	2	30		
社会福祉		保育士資格必修科目	2	30		
幼児教育課程論		保育士資格必修科目	2	30		
保育原理		保育士資格必修科目	2	30		
子どもの保健		保育士資格必修科目	2	30		
社会的養護 I		保育士資格必修科目	2	30		
小計				390	0	
実 技 (演習)	総合英語A	卒業必修科目	1	30		
	総合英語B	卒業必修科目	1	30		
	スポーツ理論・実技A	卒業必修科目	1	30		
	コンピュータ基礎演習A	卒業必修科目	1	30	30	
	生活の基礎	卒業必修科目	2	60		
	保育基礎演習	保育士資格必修科目	1	30		
	保育基礎演習	保育士資格必修科目	1	30		
	保育内容:表現(造形)	保育士資格必修科目	1	30		
	保育内容の指導法(情報機器の活用を含む)	保育士資格必修科目	2	30		
	特別な支援を要する子どもの理解と支援	保育士資格必修科目	2	60		
	保育の音楽表現	保育士資格選択必修科目	2	60		
	乳児保育 II	保育士資格必修科目	1	30		
	保育内容:健康	保育士資格必修科目	1	30		
	保育内容:言葉	保育士資格必修科目	1	30		
	保育内容:人間関係	保育士資格必修科目	1	30		
保育内容:表現(音楽)	保育士資格必修科目	1	30			
小計				570	30	
就職支援	就職セミナー 公務員試験対策講座 接指導	年6回 (キャリアデザイン論の授業内で実施) 年次:40コマ(希望者のみ) 随時	1		5	

合計(1年次合計)		965	30
-----------	--	-----	----

その他

入校式等※	入学式(4月:1日)、前期オリエンテーション(4月:3日)、前期末登校日(8月:1日)、後期オリエンテーション(9月:1日)、後期末登校日(2・3月:2日)		30	
-------	--	--	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

進級要件

委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	昭和学院短期大学			分野	保育士	
訓練コース	人間生活学科 こども発達専攻			資格等	保育士	
訓練の内容	学 科 (講義)	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン 使用時間数
		教育原理	卒業必修科目	2	30	
		子ども家庭支援論	卒業必修科目	2	30	
		教師・保育者論	保育士資格必修科目	2	30	
		子ども家庭支援の心理学	保育士資格必修科目	2	30	
		教育の心理学	保育士資格選択必修科目	2	30	
	小計				150	0
	実 技 (演習)	スポーツ理論・実技B	卒業必修科目	1	30	
		コンピュータ基礎演習B	卒業必修科目	1	30	30
		保育実習Ⅰ	保育士資格必修科目	4	180	
		幼稚園実習	幼稚園教諭免許状必修科目	4	20	
		幼稚園実習指導	幼稚園教諭免許状必修科目	1	30	
		保育実習Ⅱ	保育士資格必修科目	2	90	
		保育実習指導Ⅰ	保育士資格必修科目	2	60	
		保育実習指導Ⅱ	保育士資格必修科目	1	30	
		音楽表現法	保育士資格選択必修科目	2	60	
		<small>保育内容の理解と方法(教材の活用を含む)</small>	保育士資格必修科目	2	30	
		子どもの理解と援助	保育士資格必修科目	1	30	
		子どもの健康と安全	保育士資格必修科目	1	30	
		子どもの食と栄養A	保育士資格必修科目	1	30	
教育方法		保育士資格選択必修科目	2	30		
保育内容総論	保育士資格必修科目	1	30			
社会的養護Ⅱ	保育士資格必修科目	1	30			
子育て支援	保育士資格必修科目	1	30			
子どもの食と栄養B	保育士資格必修科目	1	30			
教職実践演習(幼稚園)	保育士資格必修科目	2	30			
小計				830	30	
就職支援	就職対策、 公務員試験対策講座	面接指導、 2年次:18コマ	5			
合計(2年次)				985	30	

その他

修了式等※	前期オリエンテーション(4月:3日)、前期末登校日(8月:1日)、後期オリエンテーション(9月:1日)、後期末登校日(2・3月:2日)、卒業式(3月15日)	
-------	--	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

所定の年限を在学し、学則第35条第二号に定める単位を修得し、免許・資格取得に必要な要件単位を修得した者について卒業と認める。